

# 平泉町公共施設等総合管理計画

平成 29 年 3 月

令和 4 年 3 月改訂

令和 6 年 3 月改訂

平 泉 町



# 目 次

<b>第1章</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1</b>
1.	公共施設等総合管理計画の背景 .....	1
2.	公共施設等総合管理計画の目的 .....	1
3.	計画期間 .....	1
4.	計画の対象 .....	2
5.	計画の位置づけ .....	2
<b>第2章</b>	<b>本町の現状</b> .....	<b>3</b>
1.	人口の推移 .....	3
2.	財政の状況 .....	8
3.	公共施設等の状況 .....	12
4.	インフラ資産の状況 .....	25
<b>第3章</b>	<b>公共施設等の維持管理・更新等にかかる中長期的な経費の見込み</b> .....	<b>27</b>
1.	試算の考え方 .....	27
2.	公共施設等に係る充当可能な財源の見込み .....	28
3.	今後の維持・管理コスト（従来型） .....	29
4.	今後の維持・管理コスト（長寿命化型） .....	30
5.	長寿命化対策の効果 .....	32
<b>第4章</b>	<b>公共施設等に関する課題と管理等に関する基本的な方針</b> .....	<b>33</b>
1.	現状や課題に関する基本認識 .....	33
2.	公共施設等の管理に関する基本的な考え方 .....	34
3.	公共施設等の管理に関する方針 .....	35
<b>第5章</b>	<b>施設類型別の管理等に関する基本的な考え方</b> .....	<b>37</b>
1.	行政系施設 .....	37
2.	保健・福祉施設 .....	41
3.	学校教育系施設 .....	43
4.	子育て支援施設 .....	45
5.	スポーツ・レクリエーション系施設 .....	47
6.	産業系施設 .....	50
7.	公営住宅 .....	52
8.	社会教育系施設 .....	54
9.	町民文化系施設 .....	56
10.	上水道施設および下水道施設（公共施設、管路） .....	58
11.	その他施設 .....	61
12.	道路 .....	67
13.	橋りょう .....	67
<b>第6章</b>	<b>推進体制</b> .....	<b>68</b>
1.	取組体制の構築及び情報管理・共有方策 .....	68
2.	フォローアップの体制 .....	68



# 第1章 はじめに

## 1. 公共施設等総合管理計画の背景

我が国の高度経済成長期に整備されてきた公共施設およびインフラ資産（以下、公共施設等という。）は、人口減少や少子高齢化の進行により社会構造や住民ニーズが大きく変化していることに加え、施設の老朽化に伴う改修や更新という大きな変革の時期が到来しています。これを受け、国では、「インフラ長寿命化基本計画（平成25年11月、インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）」を定め、インフラを管理・所管する者に対し、当該施設の維持管理や更新を着実に推進するための行動計画や個別施設計画の策定を求めています。

平泉町（以下、本町という。）の公共施設等においても、行政需要や住民ニーズに対応するため、役場庁舎、小中学校、図書館、文化遺産センターや体育館といった多岐に渡る公共施設や、道路や橋りょう、水道施設といったインフラ資産などを整備してきました。これまでは、新しい公共施設等をどのように整備していくかに重点が置かれてきましたが、今後はこれらの施設が更新時期を迎え、少子高齢化の進行と人口減少、厳しさを増す財政状況に対応しつつ、多額な維持管理費用に対する財源の確保が重点となってきます。

このような中、総務省は全国の地方公共団体に対し、公共施設等総合管理計画の策定を要請したことから、本町では、「平泉町公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定、令和4年3月改訂、平泉町）」（以下、総合管理計画という。）を策定しています。

## 2. 公共施設等総合管理計画の目的

総合管理計画は、老朽化の状況や人口推移、財政状況等の見通しについて把握・分析を行い、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針等を定め、公共施設等の機能とコストが最適な状態に保たれ、公共施設マネジメント推進の骨子を目的とした計画です。

本計画の初版策定から7年が経過しているとともに、令和4（2022）年4月1日に「公共施設等総合管理計画の策定等に関する指針（総務省）」が改訂<sup>\*</sup>されたことに伴い、令和6（2024）年3月に本計画の改訂を行うものです。

## 3. 計画期間

平成28（2016）年度から令和27（2045）年度までの30年間とします。

なお、今後の維持・管理コストの試算期間は、公共施設等の将来の姿を把握し、維持管理や配置の方針、庁内の推進体制を長期的な視点に基づき検討するため、40年とします。

また、本計画は、概ね5年ごとに見直すものとしますが、本町の総合計画や関連計画との整合性や社会経済情勢等の変化に弾力的に対応するため、不断の見直しを行うものとします。

※ 総務省が発出した「公共施設等総合管理計画の策定等に関する指針（平成26（2014）年4月22日策定）」は、平成30（2018）年2月27日と令和4（2022）年4月1日に改訂が行われています。また、「令和3年度までの公共施設等総合管理計画の見直しにあたっての留意事項」が、令和3（2021）年1月26日に発出されています

#### 4. 計画の対象

総合管理計画において対象とする公共施設等は、次のとおりとします。

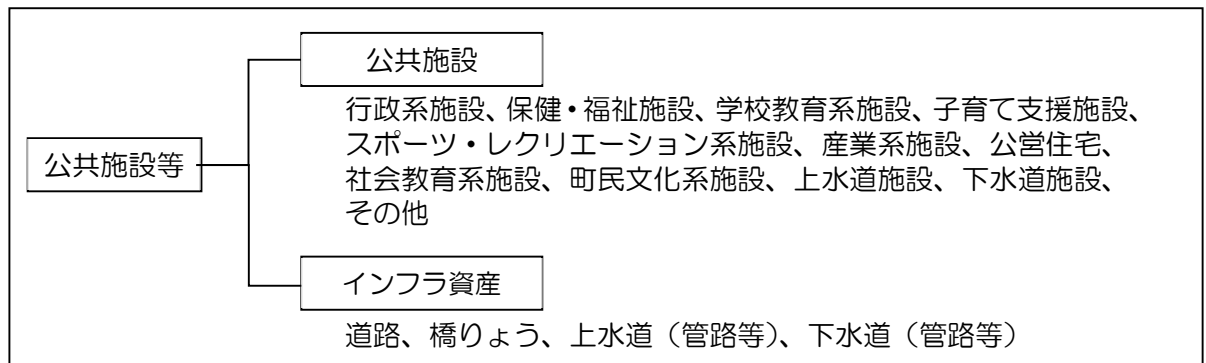


図 1 - 1 本計画の対象

#### 5. 計画の位置づけ

本計画の位置づけは以下の通りです。

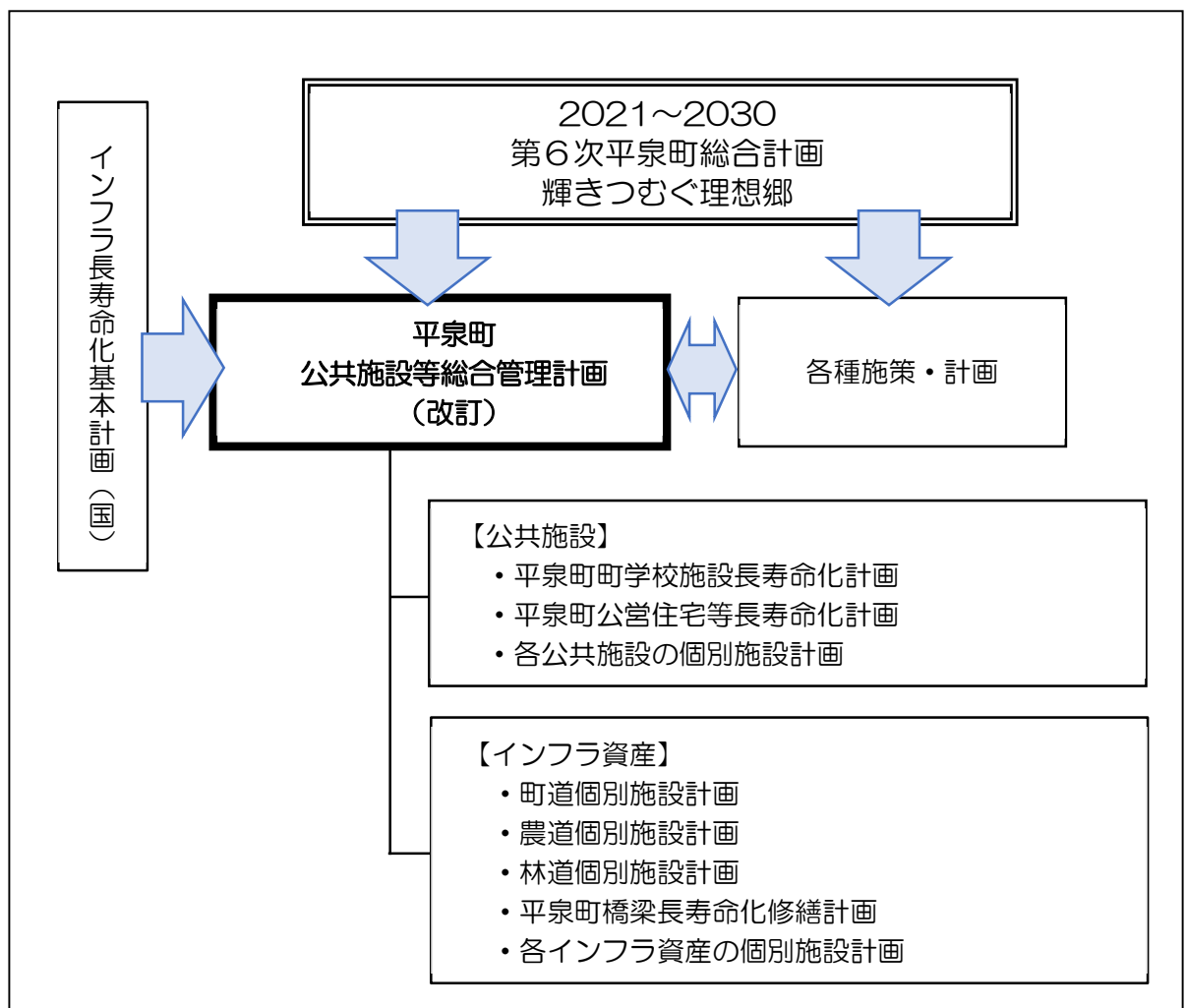


図 1 - 2 本計画の位置づけ

## 第2章 本町の現状

### 1. 人口の推移

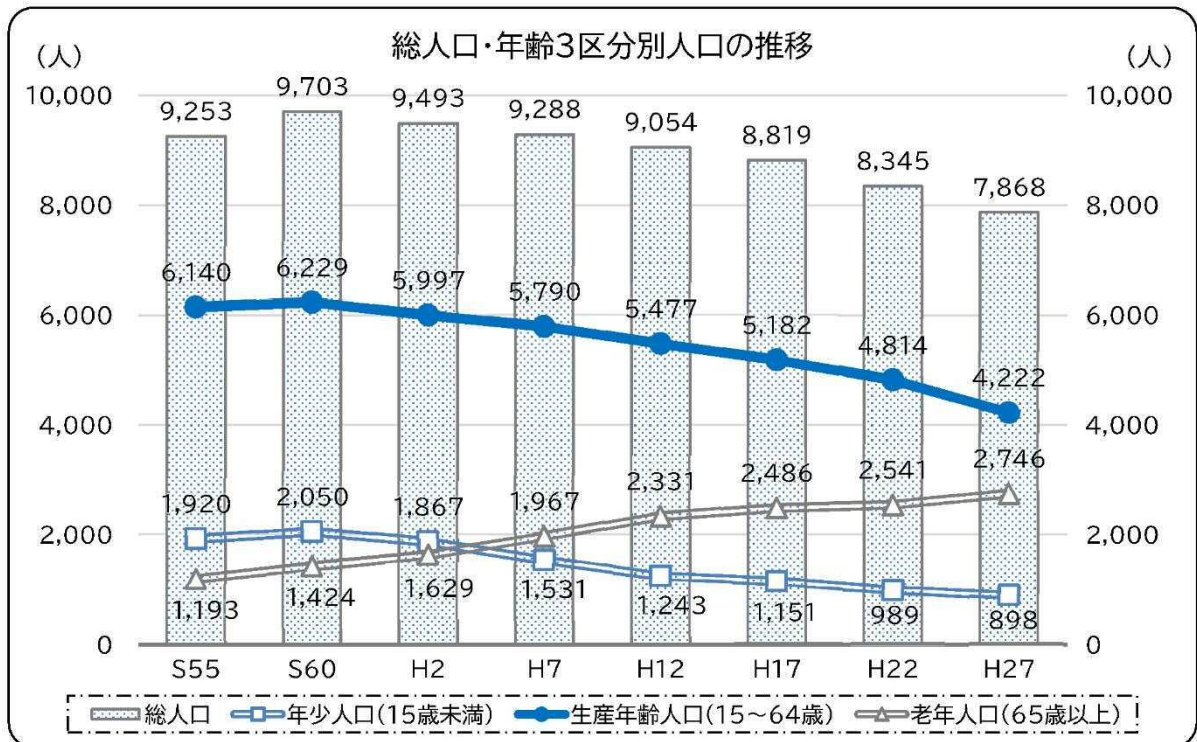
#### (1) 本町全体の人口の推移と推計

国勢調査に基づく人口の推移は、昭和60(1985)年に9,703人を記録して以降、減少が進み、平成27(2015)年には7,868人と25年間で1,835人減少(▲18.9%)しています。

また、年齢区分別の人口構成割合をみると、年少人口(0~14歳)は、昭和60(1985)年に人口の21.1%を占めていましたが、平成27(2015)年には11.4%に減少しています。老年人口(65歳以上)は、昭和60(1985)年に人口の14.7%を占めていましたが、平成27(2015)年には34.9%に増加しています。

国立社会保障・人口問題研究所が平成30(2018)年3月に公表した試算によると、令和22(2040)年の人口は5,044人、人口構成割合では年少人口は10.5%、老年人口は45.5%になると推計されています。独自推計の試算によると、令和22(2040)年の人口は4,691人、人口構成割合では年少人口は8.5%、老年人口は45.2%になると推計されています。

全国的に人口が減少し、少子高齢化が進んでいますが、本町においても同様であることを示しています。



出典：平泉町人口ビジョン2021

図2-1 平泉町全体の人口推移 (S55~H27)

■社人研推計

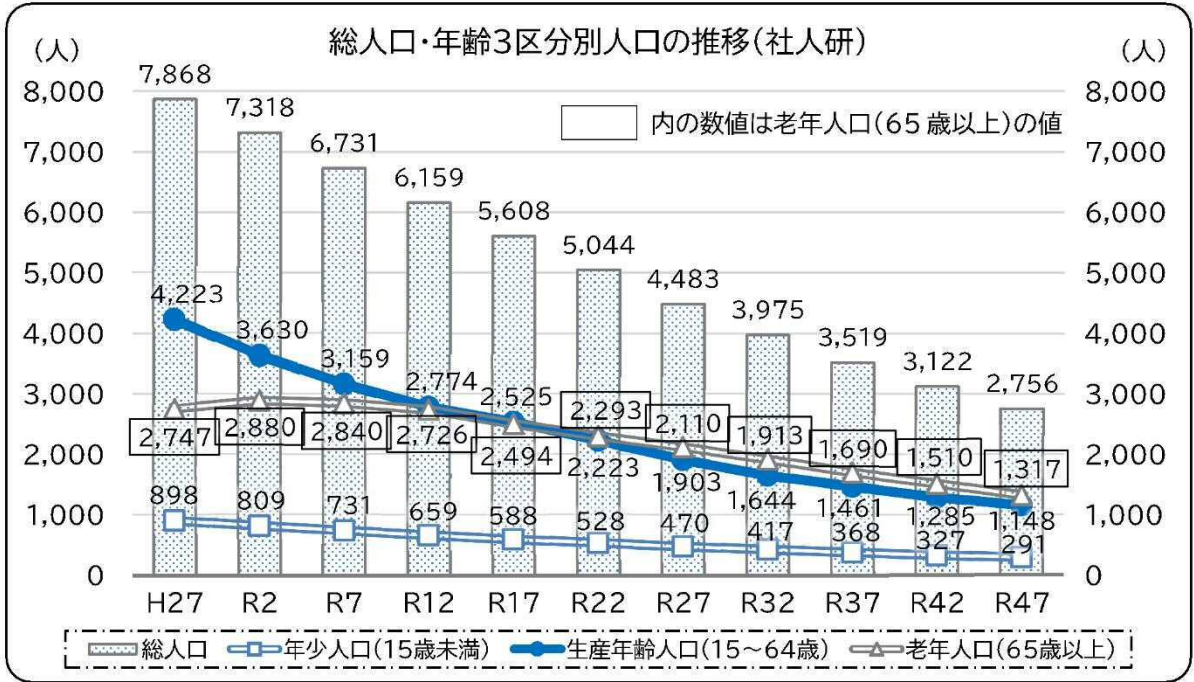


図 2 - 2 平泉町全体の人口推移 (H27~R47)

■独自推計

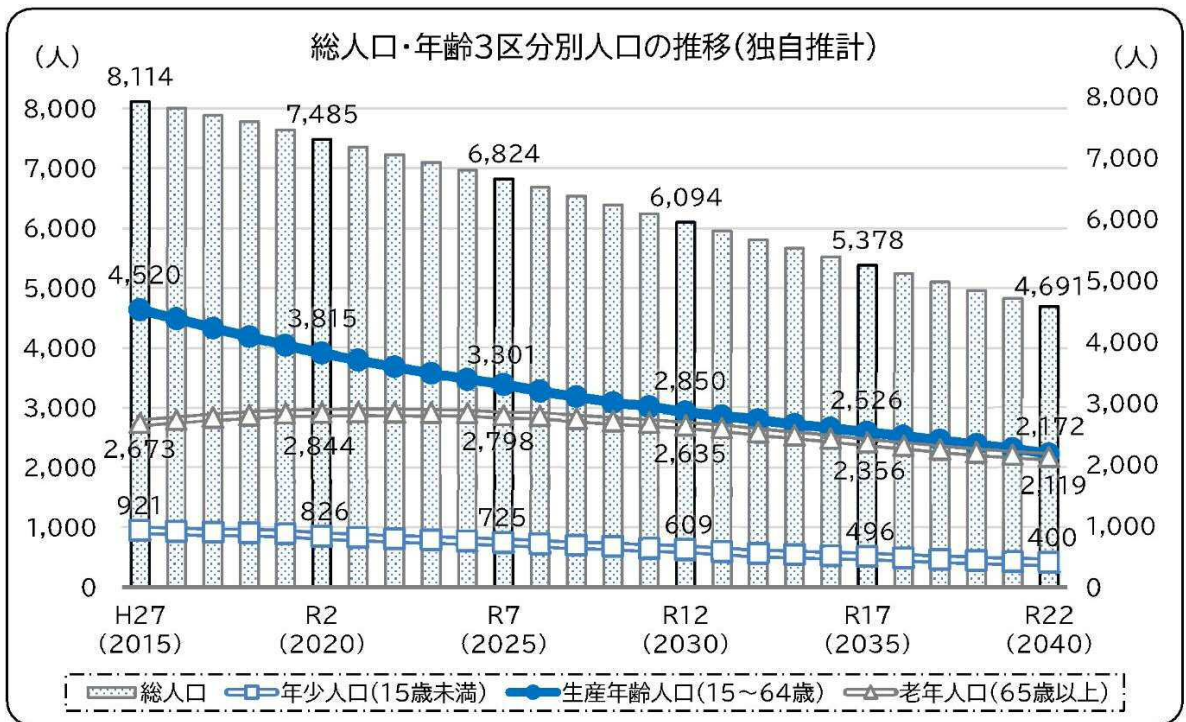
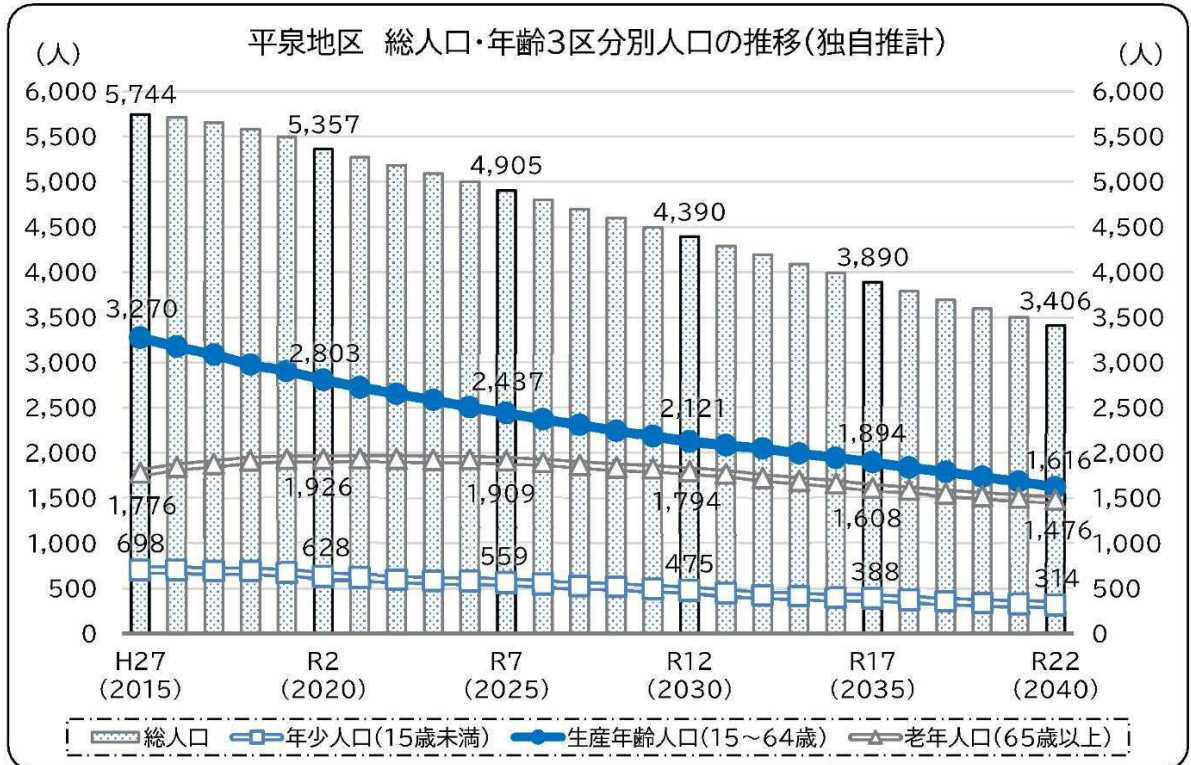


図 2 - 3 平泉町の全体人口推移 (H22~R22)



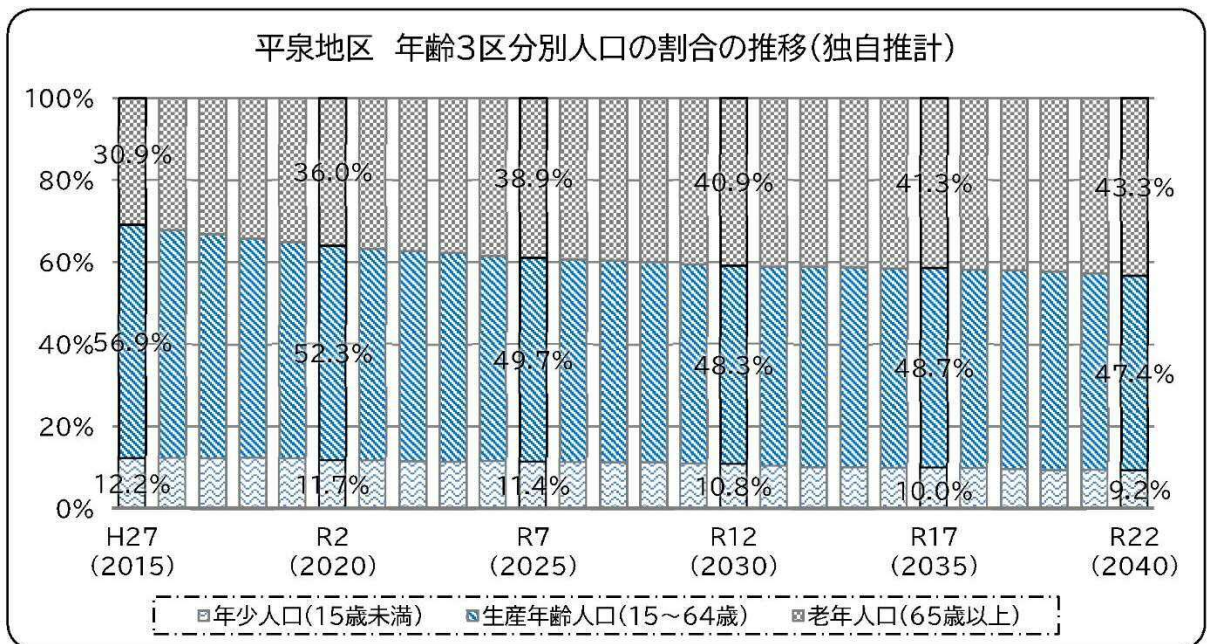
## (2) 地区別の人口推計

平泉地区と長島地区の人口推計を比較すると、長島地区における人口減少、少子高齢化が急激に進むことが想定されています。



出典：平泉町人口ビジョン 2021

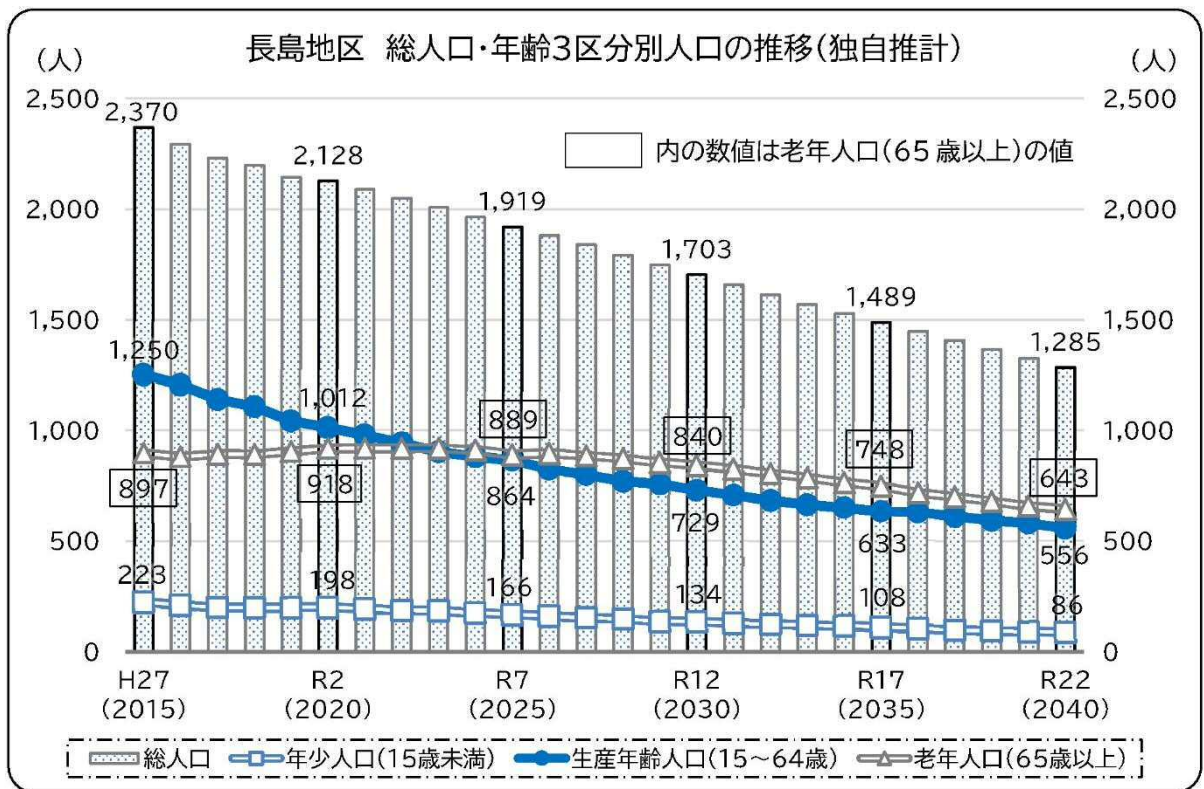
図 2-4 平泉地区人口推移



出典：平泉町人口ビジョン 2021

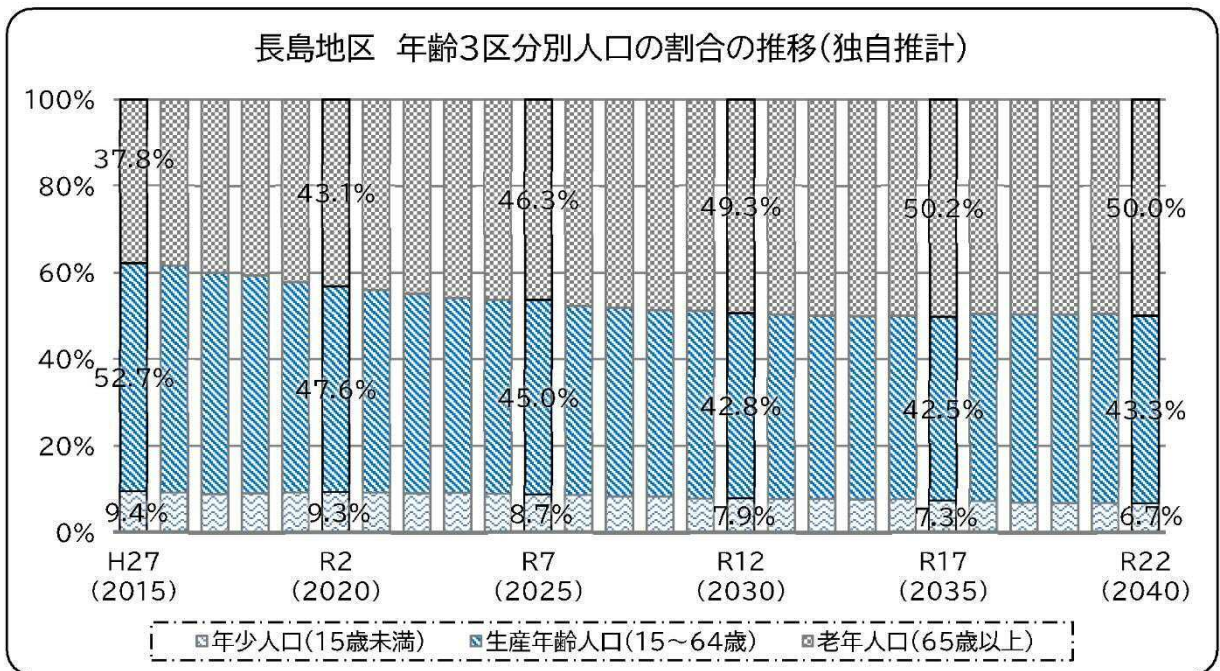
図 2-5 平泉地区人口割合推移





出典：平泉町人口ビジョン 2021

図 2-6 長島地区人口推移



出典：平泉町人口ビジョン 2021

図 2-7 長島地区人口割合推移

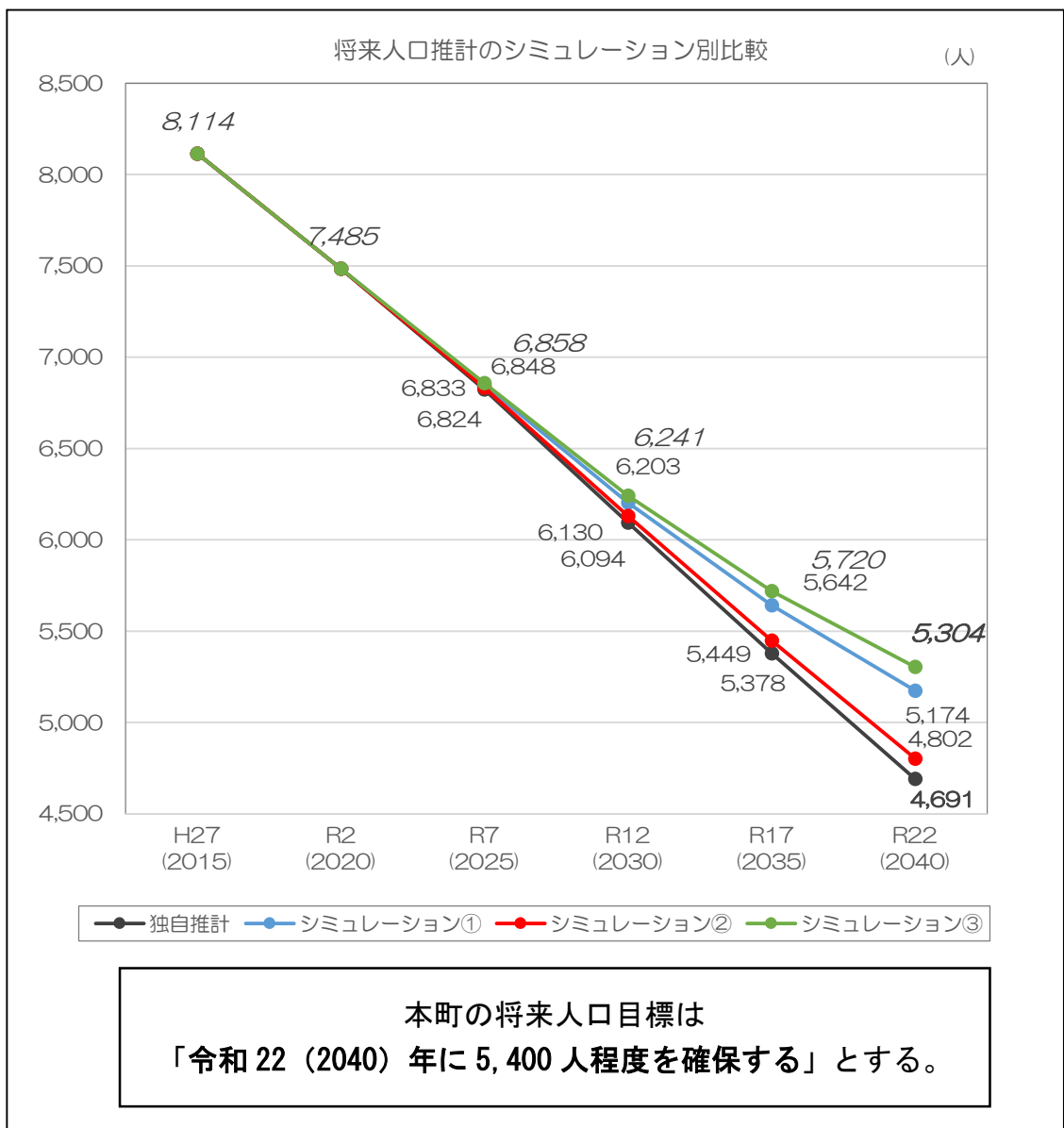
### (3) 人口の将来展望

本町の総人口は減少を続け、独自推計によると令和 22 (2040) 年には、4,691 人となることが予測されます。本町の人口ビジョンでは、総合戦略に基づき講じていく施策の効果により、人口減少がどの程度緩和することができるかシミュレーションを行っており、次のシミュレーション③を将来展望としています。

表 2-1 将来人口推計のシミュレーション別比較

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)
独自推計	8,114	7,485	6,824	6,094	5,378	4,691
シミュレーション①	8,114	7,485	6,848	6,203	5,642	5,174
シミュレーション②	8,114	7,485	6,833	6,130	5,449	4,802
シミュレーション③	8,114	7,485	6,858	6,241	5,720	5,304

単位：人



出典：平泉町人口ビジョン 2021

図 2-8 将来人口推計のシミュレーション別比較

## 2. 財政の状況

### (1) 歳入の推移

本町の令和4（2022）年度の普通会計の歳入は52.5億円です。その内訳は、地方交付税が22.0億円（42.0%）と最も多く占めています。次いで、地方税8.2億円（15.7%）、その他一般財源の6.6億円（12.6%）となっています。

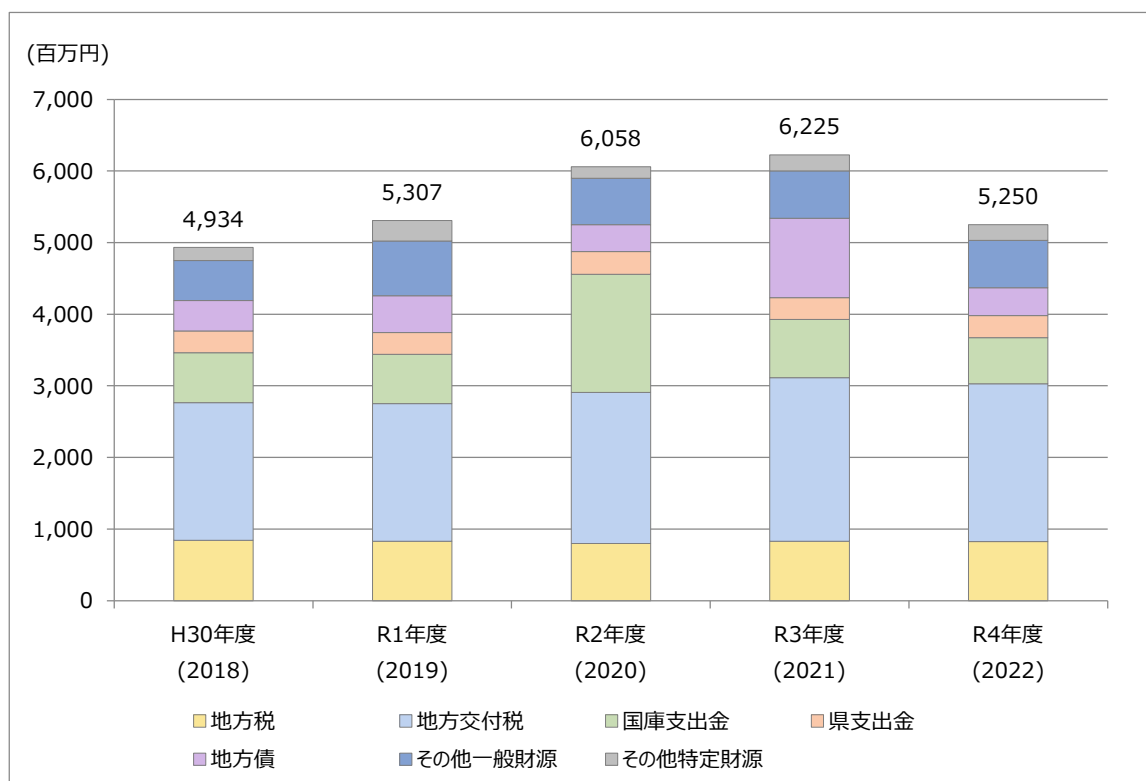
歳入の推移をみると、過去5年間の平均は55.5億円を推移し、令和3（2021）年度が62.2億円でピークとなっています。

表2-2 歳入の状況（H30年度～令和4年度）

単位：百万円

	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	平均値
地方税	843	831	799	828	823	825
地方交付税	1,922	1,921	2,107	2,285	2,207	2,088
国庫支出金	699	686	1,650	815	640	898
県支出金	303	304	320	303	308	307
地方債	422	515	374	1,106	393	562
その他一般財源	558	766	650	661	660	659
その他特定財源	187	283	158	227	219	215
合計	4,934	5,307	6,058	6,225	5,250	5,555

出典：平泉町財政データ



出典：平泉町財政データ

図2-9 歳入の状況（H30年度～令和4年度）

## (2) 歳出の推移

本町の令和4（2022）年度の普通会計の歳出は、50.6億円です。その内訳は、人件費が11.3億円（22.3%）、次いで、補助費等が10.5億円（20.7%）となっています。

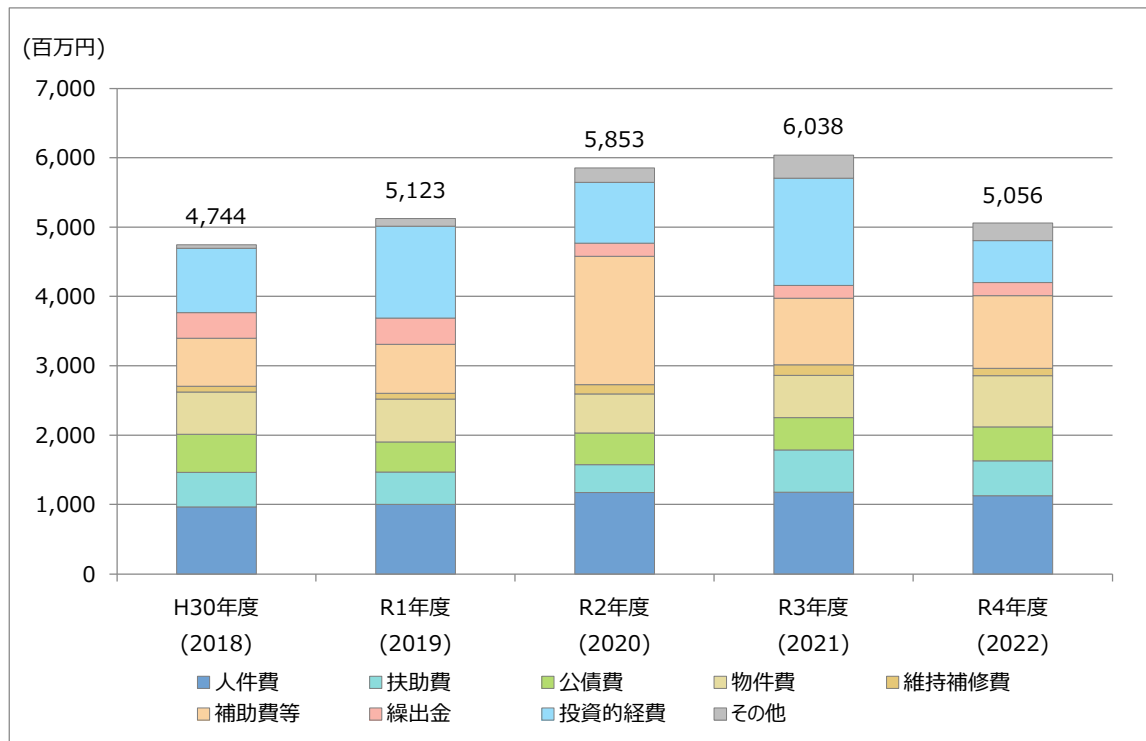
歳出の推移をみると、人件費、扶助費、公債費、物件費は横ばい傾向です。補助費等は新型コロナウイルス関連の国の施策により増加傾向です。投資的経費は、スマートインターチェンジ関連の町道や周辺施設の整備事業、平泉学習交流施設（エピカ）の整備等に費用が掛かっています。

表2-3 歳出の状況（H30年度～令和4年度）

単位：百万円

	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	平均値
人件費	964	1,001	1,173	1,176	1,127	1,088
扶助費	498	467	402	608	502	495
公債費	550	432	456	469	489	479
物件費	611	618	562	611	737	628
維持補修費	84	84	136	149	106	112
補助費等	691	707	1,848	963	1,049	1,052
繰出金	370	380	192	185	188	263
投資的経費	927	1,324	877	1,546	604	1,055
その他	50	110	207	332	254	191
合計	4,744	5,123	5,853	6,038	5,056	5,363

出典：平泉町財政データ



出典：平泉町財政データ

図2-10 歳出の状況（H30年度～令和4年度）

### (3) 財政指標の状況

本町の財政指標の状況（財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率）は次のとおりです。

表 2 - 4 歳出の状況（H30年度～令和4年度）

区分	市町村	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)
財政力指数	平泉町	0.32	0.33	0.32	0.31	0.30
	県内平均	0.36	0.37	0.37	0.37	0.37
経常収支比率 (%)	平泉町	91.1	91.2	88.1	86.7	94.7
	県内平均	92.6	94.2	92.9	90.5	93.8
実質公債費比率 (%)	平泉町	9.1	8.6	8.8	9.1	10.3
	県内平均	11.3	11.2	10.9	10.6	10.7
将来負担比率 (%)	平泉町	52.7	63.3	63.9	80.1	86.8
	県内平均	55.1	57.5	47.8	36.8	35.2

出典：主要財政指標一覧（総務省）

#### ① 財政力指数

財政力指数は、地方公共団体が自力に必要な財源をどれくらい調達できるかを示します。県内平均より下方に推移しています。

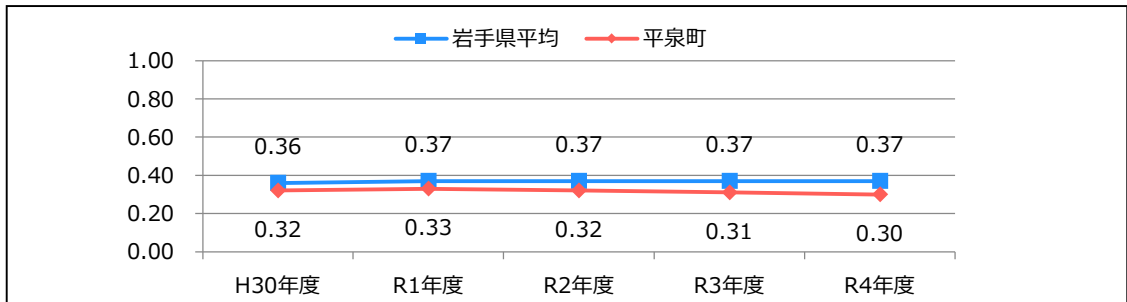


図 2 - 11 財政力指数

#### ② 経常収支比率

経常収支比率は、人件費、扶助費、公債費などの経常的経費（義務的経費）に対して、地方税や普通交付税など毎年度経常的に収入となる一般財源などがどの程度使われているかを示します。

県内平均よりも下方に推移していましたが、令和4（2022）年度はやや上昇しています。

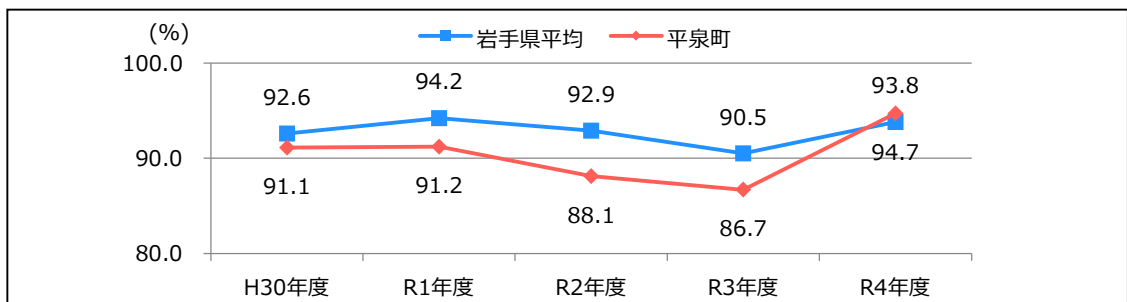


図 2 - 12 経常収支比率

③ 実質公債費比率

実質公債費比率は、地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。

県内平均よりも下方に推移しています。

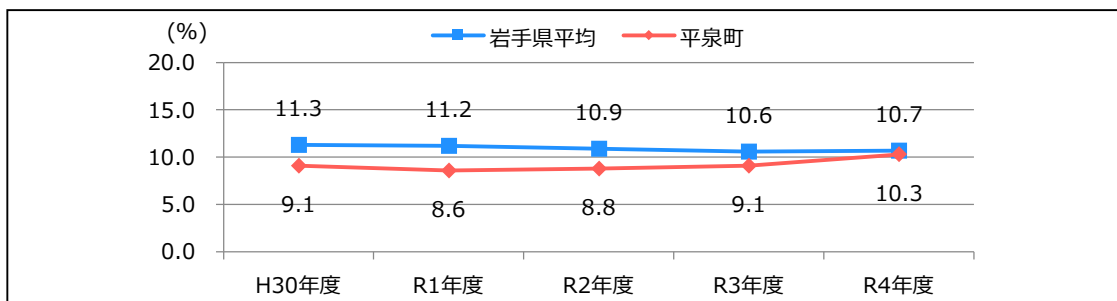


図 2 - 13 実質公債費比率

④ 将来負担比率

将来負担比率は、地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。

県内平均と同等で推移していましたが、令和 2（2020）年度から上昇傾向となっています。

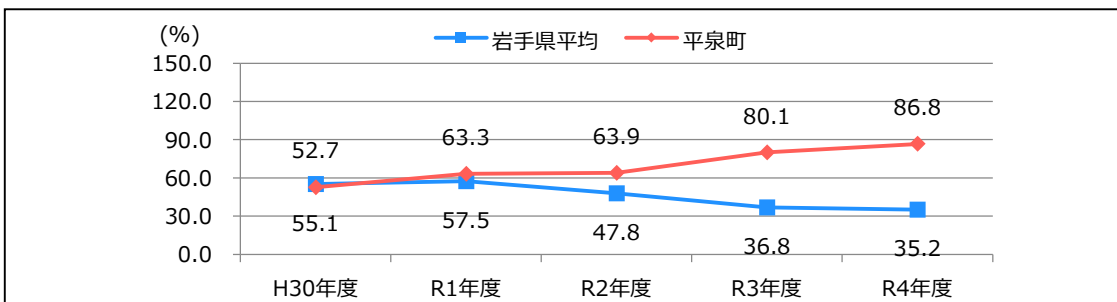


図 2 - 14 将来負担比率



### 3. 公共施設等の状況

#### (1) 公共施設一覧

本町の公共施設は、【 75 施設 127 棟 48,835.19 m<sup>2</sup> 】です。

表 2 - 5 対象施設一覧

地区	施設名	棟名	建築年度	構造	延床面積
<b>行政系施設</b>					
平泉	平泉町役場	本庁舎	1987	鉄筋コンクリート造	2,889.99
		渡廊下	1987	鉄筋コンクリート造	102.11
		車庫等	1987	鉄筋コンクリート造	621.85
平泉	一関西消防署平泉分署 平泉町コミュニティ消防センター	平泉分署、コミュニティセンター	1990	木造	536.68
		消毒施設	2005	木造	9.99
平泉	消防屯所 1-3	屯所	2004	木造	46.37
平泉	消防屯所 2	屯所	1974	木造	29.75
平泉	消防屯所 3	屯所	1984	木造	66.24
平泉	消防屯所 4	屯所	1975	木造	23.40
平泉	消防屯所 4-2	屯所	2001	木造モルタル	41.40
平泉	消防屯所 5	屯所	2017	木造	81.06
平泉	消防屯所 6	屯所	1994	木造	67.75
平泉	消防屯所 6 コミセン	屯所	1994	木造モルタル	39.74
長島	消防屯所 7	屯所	1998	木造	99.37
長島	消防屯所 8	屯所	1955	木造	46.28
長島	消防屯所 8-2	屯所	2003	木造	59.62
長島	消防屯所 9	屯所	1955	木造	49.58
行政系施設			14 施設	17 棟	4,811.18 m <sup>2</sup>
<b>保健・福祉施設</b>					
平泉	保健センター	保健センター	1983	鉄筋コンクリート造	594.47
平泉	健康福祉交流館	健康福祉交流館	2000	鉄筋コンクリート造	892.00
保健・福祉施設			2 施設	2 棟	1,486.47 m <sup>2</sup>
<b>学校教育系施設</b>					
平泉	平泉小学校	校舎	2003	鉄筋コンクリート造	3,875.65
		体育館	2001	鉄筋鉄骨コンクリート造	1,448.44
		プール更衣室	2004	木造	92.83
		道具置場	1990	木造	9.50
平泉	平泉中学校	校舎	2011	鉄筋コンクリート造	3,810.60
		体育館	1977	鉄骨コンクリート	1,317.53
		柔剣道場	1979	鉄骨コンクリート	459.50



地区	施設名	棟名	建築年度	構造	延床面積
平泉	平泉中学校	物置	2011	木造	165.52
		プール更衣室	2012	鉄筋コンクリート造	149.06
		駐輪所	2012	鉄骨造	155.52
長島	長島小学校※	校舎	1993	鉄筋コンクリート造	2,786.05
		体育館	1994	鉄筋コンクリート造	1,025.00
		プール更衣室	1994	木造	65.00
		クラブハウス	1994	木造	20.00
学校教育系施設			3 施設	14 棟	15,380.30 m <sup>2</sup>

子育て支援施設					
平泉	平泉町立幼稚園	園舎	2001	木造	514.36
平泉	平泉保育所	保育所	2006	木造	736.15
平泉	すぎの子クラブ	児童クラブ	2001	木造	197.07
長島	長島保育所	園舎	2011	木造	674.90
子育て支援施設			4 施設	4 棟	2,122.48 m <sup>2</sup>

スポーツ・レクリエーション系施設					
平泉	テニスコートクラブハウス	クラブハウス	1995	木造	147.40
長島	大文字キャンプ場	大文字キャンプ場管理棟	1991	木造	81.81
		展望施設 1	1991	木造	19.90
		展望施設 2	1991	木造	24.50
		休憩施設 1	1991	木造	16.32
		休憩施設 2	1991	木造	16.32
長島	木工芸館	木工芸館	1992	木造	366.84
長島	長島球場	球場	1990	鉄筋コンクリート造	547.25
		トイレ	1990	鉄筋コンクリート造	31.62
長島	長島体育館	体育館	1987	鉄骨コンクリート	894.00
スポーツ・レクリエーション系施設			5 施設	10 棟	2,145.96 m <sup>2</sup>

産業系施設					
平泉	農産物加工直売施設	農産物加工直売施設	2009	木造	165.00
平泉	道の駅平泉	道の駅	2016	木造	877.38
産業系施設			2 施設	2 棟	1,042.38 m <sup>2</sup>

公営住宅					
平泉	花立住宅	住宅 5 棟	1967	木造モルタル	720.64
平泉	大沢住宅	住宅 2 棟	1969	木造モルタル	251.20
平泉	大佐住宅	住宅 2 棟	1974	木造モルタル	361.36
		住宅 3 棟	1974	木造モルタル	498.24
平泉	高田前住宅	住宅 2 棟	1972	木造モルタル	299.84
		住宅 3 棟	1972	木造モルタル	349.60

※長島小学校は、空き教室を活用した児童クラブがあります。

地区	施設名	棟名	建築年度	構造	延床面積
平泉	高田前住宅	住宅 2 棟 (6, 7 号棟)	1979	補強コンクリートブロック	511.20
		住宅 2 棟 (8, 9 号棟)	1979	補強コンクリートブロック	734.40
		住宅 1 棟 (10 号棟)	1980	補強コンクリートブロック	383.40
		住宅 1 棟	1981	補強コンクリートブロック	273.54
		住宅 2 棟	1982	補強コンクリートブロック	766.80
		住宅 2 棟	1982	補強コンクリートブロック	683.85
		住宅 2 棟	1982	補強コンクリートブロック	639.00
		住宅 1 棟	1983	補強コンクリートブロック	273.54
		住宅 2 棟	1983	補強コンクリートブロック	639.00
		集会所	1981	木造	99.70
平泉	上野台住宅	1 号棟	1999	鉄筋コンクリート造	1,810.62
		2 号棟	2000	鉄筋コンクリート造	1,810.62
		3 号棟	2001	鉄筋コンクリート造	1,810.62
		集会所	2002	木造	105.99
公営住宅			5 施設	37 棟	13,023.16 ㎡

社会教育系施設					
平泉	平泉文化遺産センター	センター棟	1986	鉄筋コンクリート造	1,735.30
		収納庫	2001	鉄筋構造物	79.45
平泉	平泉町学習交流施設(エピカ)※	平泉町学習交流施設(エピカ)	2021	鉄骨造	1,749.70
社会教育系施設			2 施設	3 棟	3,564.45 ㎡

町民文化系施設					
長島	平泉町公民館長島分館	公民館	2009	木造	173.07
町民文化系施設			1 施設	1 棟	173.07 ㎡

上水道施設					
平泉	戸河内浄水場	浄水場	2001	鉄筋コンクリート造	106.00
平泉	平泉浄水場	浄水場	1979	鉄筋コンクリート造	264.00
平泉	窟地区ポンプ場	ポンプ場	2000	F R P	67.00
平泉	上窟ポンプ場	ポンプ場	1992	コンクリートブロック	16.20
平泉	小金沢加圧ポンプ場	加圧ポンプ場	1997	F R P	4.00
平泉	西風加圧ポンプ場	加圧ポンプ場	1997	F R P	4.00
平泉	御堂の沢加圧ポンプ場	加圧ポンプ場	2002	F R P	2.00
長島	長島浄水場	浄水場	1985	鉄筋	180.00
長島	東稲第 1 ポンプ室	ポンプ室	1996	鉄筋	45.00
長島	東稲第 2 ポンプ室	ポンプ室	1996	鉄筋	45.00
長島	東岳ポンプ室	ポンプ室	1979	コンクリートブロック	14.40
上水道施設			11 施設	11 棟	747.60 ㎡

※平泉町学習交流施設（エピカ）は、図書館、公民館の複合施設です。

地区	施設名	棟名	建築 年度	構造	延床面積
下水道施設					
長島	長島中央地区グリーンセンター	グリーンセンター	1999	鉄筋コンクリート造	167.94
			1 施設	1 棟	167.94 m <sup>2</sup>

その他						
平泉	宿泊交流体験施設「浄土の館」	宿泊交流体験施設「浄土の館」	1975	木造	315.36	
平泉	鈴懸小公園	鈴懸小公園	1995	木造	396.60	
平泉	鈴懸小公園トイレ	鈴懸小公園さわやかトイレ	1995	木造	61.78	
平泉	達谷窟トイレ	トイレ	2002	木造	24.63	
平泉	中尊寺通り公衆用トイレ	中尊寺通り公衆用トイレ	2014	木造	31.71	
平泉	平泉町スマートインターチェンジ 駐車場トイレ	平泉町スマートインターチェンジ 駐車場トイレ	2022	木造	44.41	
平泉	中尊寺第 1 駐車場料金所	中尊寺第 1 駐車場料金所	1996	鉄筋コンクリート造	14.90	
平泉	中尊寺さわやかトイレ	中尊寺さわやかトイレ	2006	木造	104.65	
平泉	中尊寺第 2 駐車場料金所	中尊寺第 2 駐車場料金所	1986	木造	17.75	
平泉	中尊寺第 2 駐車場トイレ	中尊寺第 2 駐車場トイレ	2016	木造	45.00	
平泉	毛越寺駐車場料金所	毛越寺駐車場料金所	1981	木造	12.42	
平泉	毛越寺駐車場トイレ	毛越寺駐車場トイレ	2016	木造	90.00	
平泉	旧在宅介護支援センター	在宅介護センター	1994	鉄筋コンクリート造	187.84	
平泉	観光案内所	観光案内所	2002	木造	154.66	
平泉	デイサービスセンター	デイサービスセンター	1989	鉄筋コンクリート造	320.64	
平泉	シルバー人材センター	シルバー人材センター	1999	木造	66.24	
平泉	戸河内コミュニティセンター	戸河内コミュニティセンター	1994	木造	142.44	
平泉	旧戸河内小学校屋体	旧戸河内小学校屋体	1969	木造	273.00	
平泉	旧平泉幼稚園(11 区公民館)	旧平泉幼稚園	1973	木造	218.18	
平泉	旧古里庵(世嬭の一酒造店舗)	旧古里庵(世嬭の一酒造店舗)	1991	木造	266.37	
平泉	志業シアハウス(旧志羅山旅館)	旧志羅山旅館	1996	木造	441.37	
平泉	旧平泉町立図書館	旧平泉町立図書館	1969	鉄筋コンクリート造	314.94	
平泉	鈴沢スタートアップオフィス (旧志羅山児童館)	平泉町起業家支援施設	1980	木造	107.65	
平泉	旧平泉町公民館	旧平泉町公民館	1966	鉄筋コンクリート造	504.70	
長島	旧東稲無線中継所	旧東稲無線中継所	1990	鉄筋コンクリート造	12.96	
			その他	25 施設	25 棟	4,170.20 m <sup>2</sup>
<b>総計</b>			<b>75 施設</b>	<b>127 棟</b>	<b>48,835.19 m<sup>2</sup></b>	

## (2) 保有状況（施設類型別）

本町の公共施設の保有状況は、学校教育系施設が全体の31.5%を占めています。次いで、公営住宅が26.7%を占めています。

表2-6 保有状況（施設類型別）

施設類型	本計画（改訂時点）				平成29年 3月時点	延床面積の推移 ①-②（㎡）
	施設数	棟数	延床面積（㎡） ①	割合 （%）	延床面積（㎡） ②	
行政系施設	14	17	4,811.18	9.9	4,790.95	-27.00
保健・福祉施設	2	2	1,486.47	3.0	1,486.47	0.00
学校教育系施設	3	14	15,380.30	31.5	15,380.30	0.00
子育て支援施設	4	4	2,122.48	4.3	2,229.72	-107.24
スポーツ・レクリエーション系施設	5	10	2,145.96	4.4	2,146.96	0.00
産業系施設	2	2	1,042.38	2.1	1,022.00	20.38
公営住宅	5	37	13,023.16	26.7	13,023.16	0.00
社会教育系施設	2	3	3,564.45	7.3	2,129.94	1,434.51
町民文化系施設	1	1	173.07	0.4	703.00	-529.93
上水道施設	11	11	747.60	1.5	737.00	10.60
下水道施設	1	1	167.94	0.3	167.94	0.00
その他	25	25	4,170.20	8.5	2,770.00	1,400.20
合計	75	127	48,835.19	100.0	46,586.74	2,201.22

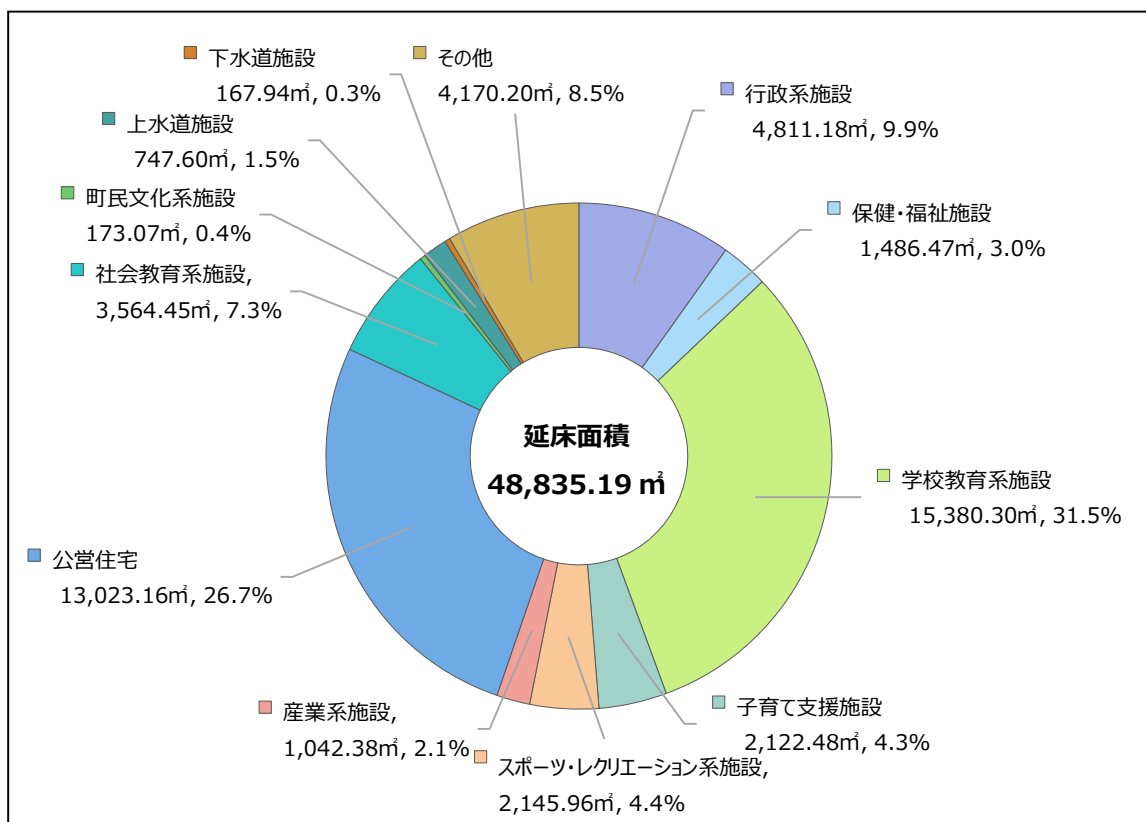


図2-15 保有状況（施設類型別）

### (3) 過去に行った対策の実績

本町では、総合管理計画の管理に関する基本的な方針を踏まえ、道の駅平泉と平泉町学習交流施設（エピカ）の整備が行われています。

なお、本計画の改訂を行うにあたり、分類上の変更が行われたほか、固定資産台帳等との整合を図り、保有量（延床面積）の精緻化が行われています。

過去に行った対策の実績は次のとおりです。

表 2-7 過去に行った対策の実績

大分類	施設名称	対策の実績	面積 (㎡)
行政系施設	消防屯所	保有量（延床面積）の精緻化のため	-27.00
子育て支援施設	旧志羅山児童館	分類変更のため（その他へ）	-107.24
産業系施設	道の駅平泉	平成 28（2016）年度に整備のため	877.38
社会教育系施設	旧平泉町立図書館	分類変更のため（その他へ）	-314.94
	平泉町学習交流施設（エピカ）	令和 3（2021）年度に整備のため	1,749.70
町民文化施設	平泉町公民館	分類変更のため（その他へ）	-504.63
上水道施設	小金沢加圧ポンプ場	保有量（延床面積）の精緻化のため	+4.00
	西風加圧ポンプ場		+2.00
	御堂の沢加圧ポンプ場		+2.00
その他	旧志羅山児童館	分類変更のため（子育て支援施設より） 名称変更：鈴沢スタートアップオフィス	+107.24
	旧平泉町立図書館	分類変更のため（社会教育系施設より）	+314.94
	旧平泉町公民館	分類変更のため（町民文化施設より）	+504.63

#### (4) 人口一人あたりの延床面積

本町の人口一人あたりの公共施設延床面積は 6.5 m<sup>2</sup>/人です。東北の類似団体（町村Ⅱ－1）の平均と比較した場合低い結果となっています。

表 2－8 東北の類似団体（町村Ⅱ－1）の人口一人あたりの公共施設延床面積

県	市町村	人口（人）	延床面積合計（㎡）	一人あたりの延床面積（㎡/人）
宮城県	女川町	6,232	165,696	26.6
福島県	西会津町	6,022	122,165	20.3
福島県	楡葉町	6,767	102,417	15.1
山形県	飯豊町	6,824	101,208	14.8
岩手県	住田町	5,225	75,609	14.5
山形県	小国町	7,248	95,678	13.2
山形県	西川町	5,080	64,922	12.8
山形県	最上町	8,279	99,000	12.0
山形県	金山町	5,264	55,250	10.5
山形県	舟形町	5,136	50,224	9.8
福島県	塙町	8,462	82,518	9.8
福島県	平田村	5,900	57,010	9.7
福島県	古殿町	5,027	46,032	9.2
福島県	矢祭町	5,599	50,732	9.1
山形県	大石田町	6,716	60,545	9.0
福島県	新地町	7,861	70,102	8.9
宮城県	色麻町	6,648	55,443	8.3
宮城県	大衡村	5,870	46,181	7.9
宮城県	川崎町	8,593	67,473	7.9
山形県	真室川町	7,310	56,963	7.8
福島県	天栄村	5,515	42,662	7.7
福島県	泉崎村	6,358	48,137	7.6
山形県	大江町	7,815	58,971	7.5
福島県	国見町	8,816	66,484	7.5
福島県	小野町	9,816	70,191	7.2
福島県	浅川町	6,248	43,546	7.0
山形県	三川町	7,377	47,733	6.5
福島県	大玉村	8,772	39,761	4.5
岩手県	平泉町	7,330	47,425	<b>6.5</b>
岩手県内の平均		37,006	234,020	6.3
東北の平均		6,831	68,623	10.0
全国平均		7,240	68,006	9.4

出典：令和 2 年国勢調査、公共施設状況調経年比較表（令和 3 年度、総務省）

※延床面積合計（㎡）は、行政財産および普通財産の面積を合計した場合の値です。

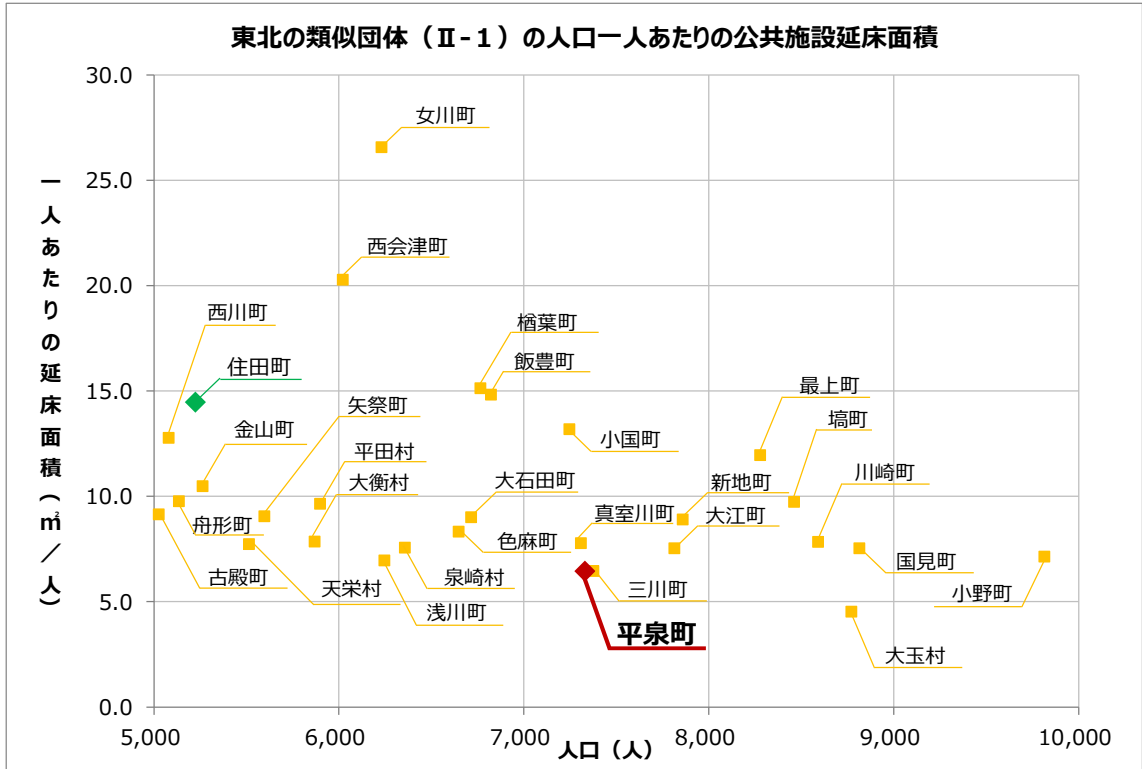


図 2-16 東北の類似団体（町村Ⅱ-1）の人口一人あたりの公共施設延床面積

## (5) 築年数別保有量の状況

本町の公共施設の築年別保有量の状況は、築30年以上の公共施設が全体の48.3%を占めます。また、築20年以上の公共施設を含めると81.1%を占めることから、今後、計画的な維持保全が求められます。

表2-9 築年別保有量の状況

単位：㎡

	築50年以上	築40～49年	築30～39年	築20～29年	築10～19年	築10年未満	合計	築30年以上
行政系施設	96	53	4,217	308	56	81	4,811	90.7%
構成比	4.0%	1.1%	88.5%	5.2%	1.2%	0.0%	100.0%	
保健・福祉施設	0	594	0	892	0	0	1,486	40.0%
構成比	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
学校教育系施設	0	1,777	2,796	6,434	4,374	0	15,380	29.7%
0.0%	11.6%	18.2%	41.8%	28.4%	0.0%	100.0%		
子育て支援施設	0	0	0	711	1,411	0	2,122	0.0%
構成比	0.0%	0.0%	0.0%	33.5%	66.5%	0.0%	100.0%	
スポーツ・レクリエーション系施設	0	0	1,999	147	0	0	2,146	93.1%
構成比	0.0%	0.0%	93.1%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%	
産業系施設	0	0	0	0	165	877	1,042	0.0%
構成比	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	84.2%	100.0%	
公営住宅	1,621	5,864	0	5,538	0	0	13,023	57.5%
構成比	12.4%	45.0%	0.0%	42.5%	0.0%	0.0%	100.0%	
社会教育系施設	0	0	1,735	79	0	1,750	3,564	48.7%
構成比	0.0%	0.0%	48.7%	2.2%	0.0%	49.1%	100.0%	
町民文化系施設	0	0	0	0	173	0	173	0.0%
構成比	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
上水道施設	0	278	196	273	0	0	748	63.5%
構成比	0.0%	37.2%	26.2%	36.5%	0.0%	0.0%	100.0%	
下水道施設	0	0	0	168	0	0	168	0.0%
構成比	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
その他	1,311	435	618	1,490	105	211	4,170	56.7%
構成比	31.4%	10.4%	14.8%	35.7%	2.5%	5.1%	100.0%	
合計	3,028	9,003	11,560	16,042	6,284	2,919	48,835	48.3%
構成比	6.2%	18.4%	23.7%	32.8%	12.9%	6.0%	100.0%	

※小数点以下第1位を四捨五入しています。



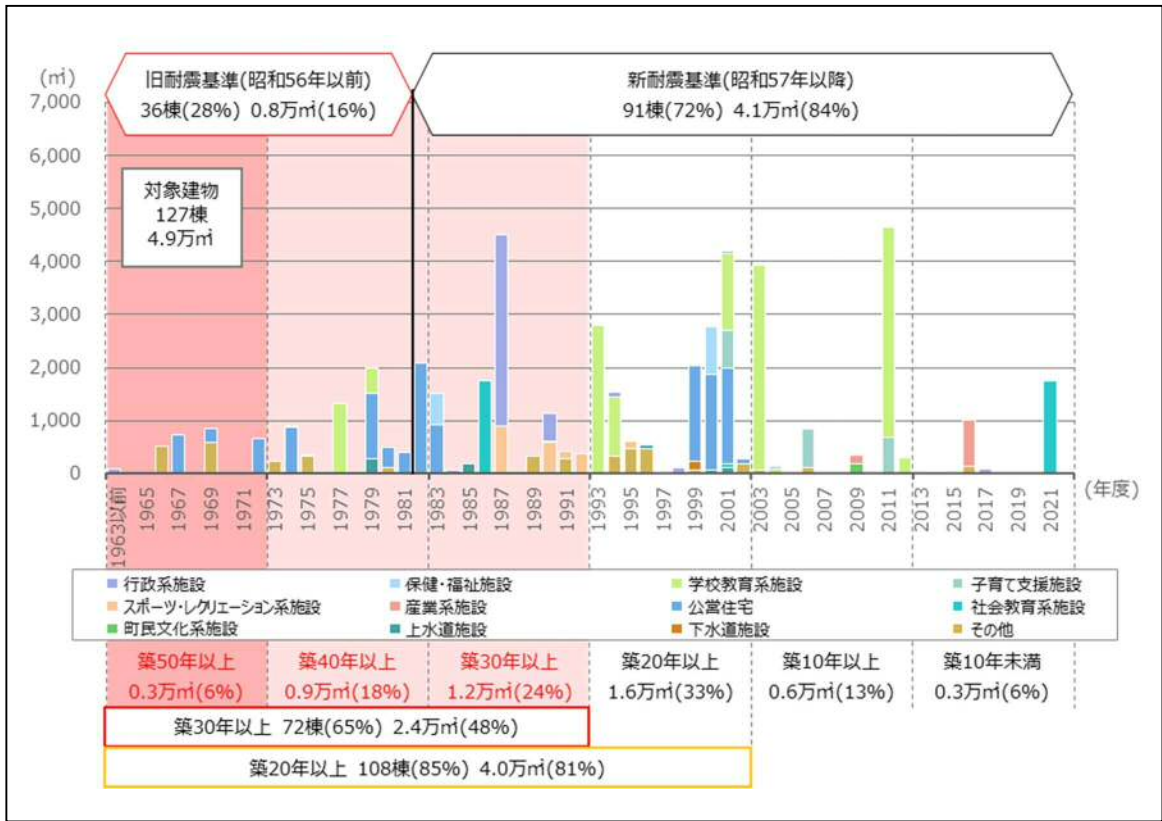


図 2-17 築年別保有量の状況

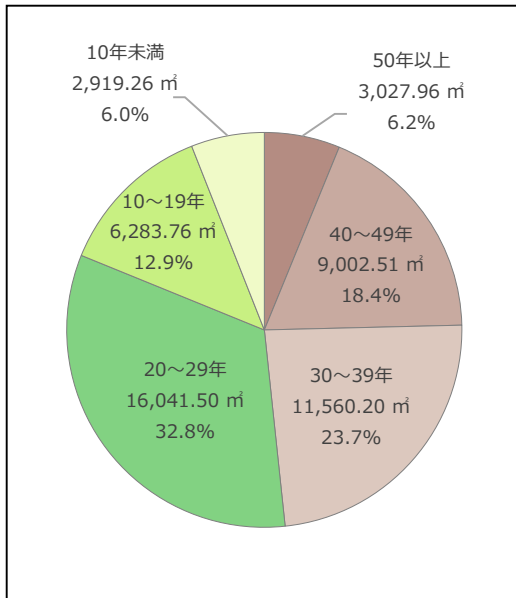


図 2-18 築年別保有量の状況 (割合)

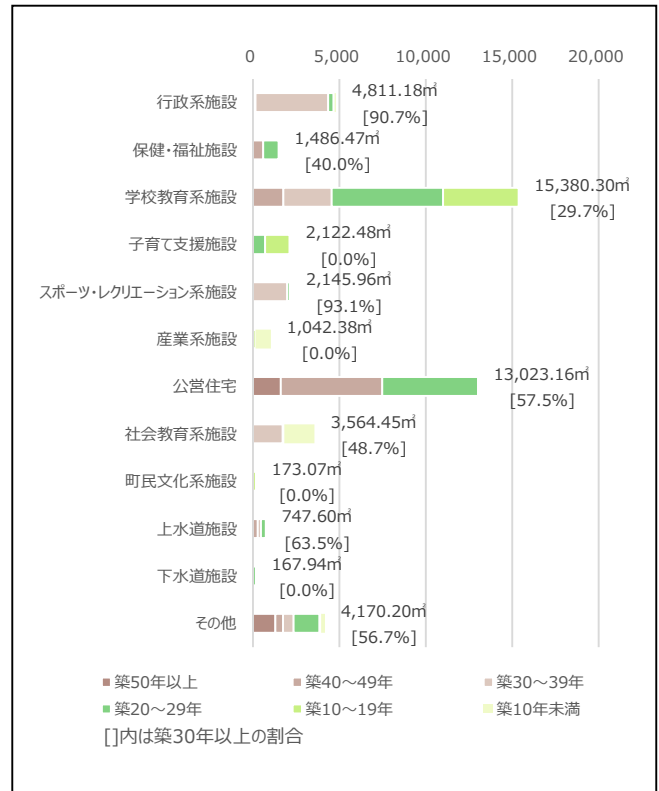


図 2-19 築年別保有量の状況 (大分類別)

## (6) 地区別保有量の状況

本町の公共施設の地区別保有量の状況は次のとおりです。

平泉地区は 41,372.46 m<sup>2</sup>を占め、長島地区では 7,462.73 m<sup>2</sup>を占めています。

表 2-10 保有量の状況 (地区別)

単位：m<sup>2</sup>

	平泉	長島	合計
行政系施設	4,556.33	254.85	4,811.18
構成比	94.7%	5.3%	100.0%
保健・福祉施設	1,486.47	0.00	1,486.47
構成比	100.0%	0.0%	100.0%
学校教育系施設	11,484.25	3,896.05	15,380.30
構成比	74.7%	25.3%	100.0%
子育て支援施設	1,447.58	674.90	2,122.48
構成比	68.2%	31.8%	100.0%
スポーツ・レクリエーション系施設	147.40	1,998.56	2,145.96
構成比	6.9%	93.1%	100.0%
産業系施設	1,042.38	0.00	1,042.38
構成比	100.0%	0.0%	100.0%
公営住宅	13,023.16	0.00	13,023.16
構成比	100.0%	0.0%	100.0%
社会教育系施設	3,564.45	0.00	3,564.45
構成比	100.0%	0.0%	100.0%
町民文化系施設	0.00	173.07	173.07
構成比	0.0%	100.0%	100.0%
上水道施設	463.20	284.40	747.60
構成比	62.0%	38.0%	100.0%
下水道施設	0.00	167.94	167.94
構成比	0.0%	100.0%	100.0%
その他	4,157.24	12.96	4,170.20
構成比	99.7%	0.3%	100.0%
合計	41,372.46	7,462.73	48,835.19
構成比	84.7%	15.3%	100.0%

## (7) 耐震化の状況

本町の公共施設の耐震化の状況は次のとおりです。

新耐震基準について、棟別では91棟(71.7%)、延床面積別では40,787.04㎡(83.5%)を占めています。

また、旧耐震基準について、棟別では36棟(28.3%)、延床面積別では8,048.15㎡(16.5%)を占めています。全体に占める割合ではそれほど危機的な状況ではないものの、本庁舎等は建築から35年以上経過してきており、老朽化への適切な対策が必要となっています。

表2-11 耐震化の状況(地区別、棟別)

耐震基準※				単位:棟
	平泉	長島	全体	構成比(%)
新耐震	69	22	91	71.7
旧耐震	33	3	36	28.3
合計	102	25	127	100.0

表2-12 耐震化の状況(地区別、延床面積別)

耐震基準※				単位:㎡
	平泉	長島	全体	構成比(%)
新耐震	33,434.57	7,352.47	40,787.04	83.5
旧耐震	7,937.89	110.26	8,048.15	16.5
合計	41,372.46	7,462.73	48,835.19	100.0

※ 昭和56(1981)年6月に建築基準法が改正されています。ここでは、昭和56(1981)年度以前に建築された建築物を「旧耐震基準」、昭和57(1982)年度以降に建築された建築物を「新耐震基準」としています。

## (8) 有形固定資産減価償却率の推移

本町の公共施設の有形固定資産減価償却率の推移は次のとおりです。

本町が保有する有形固定資産<sup>※1</sup>のうち、土地以外の償却資産（建物や工作物）の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して減価償却<sup>※2</sup>がどこまで進んでいるか把握することができます。これは、年度ごとに公共施設の老朽化を表す一つ指標となります。

年度ごとの老朽化率（％）について、令和2（2020）年度は58.9％、令和3（2021）年度は60.9％となっています。

表2-13 有形固定資産減価償却率の推移

単位：百万円

施設類型	取得価格	令和2（2020）年度		令和3（2021）年度	
		減価償却累計額	老朽化率（％）	減価償却累計額	老朽化率（％）
行政系施設	872	590	67.7	609	69.9
保健・福祉施設	460	238	51.8	247	53.8
学校教育系施設	3,777	1,726	45.7	1,802	47.7
子育て支援施設	540	332	61.5	357	66.1
スポーツ・レクリエーション系施設	151	148	97.9	148	98.0
産業系施設	320	67	21.0	81	25.2
公営住宅	2,540	1,805	71.1	1,835	72.2
社会教育系施設	517	351	67.9	362	69.9
町民文化系施設	33	15	46.2	17	50.4
その他	625	522	83.5	532	85.2
合計	9,835	5,795	58.9	5,990	60.9

※1 有形固定資産とは、土地や建物など長期間にわたり使用するために保有する資産を指します。

なお、上水道施設、下水道施設を省きます。

※2 減価償却とは、使用または時間の経過による固定資産（土地は除く）の価値減少を、決算期ごとに一定の割合（法定耐用年数）により計上した費用を指します。

## 4. インフラ資産の状況

### (1) 道路の状況

本町の町道、農道、林道、自転車歩行者道は、次のとおりです。

表 2-14 本町の道路の実延長と道路部面積

道路	実延長 (m)	道路部面積 (㎡)	備考
町道	252,818	1,385,983	(実延長、道路部面積) 町道台帳
農道	1,481	7,942	(実延長) 農道台帳 (道路部面積) 農道台帳 各路線の実延長に最大幅員を乗算
林道	10,129	46,041	(実延長) 林道台帳 (道路部面積) 林道台帳 各路線の実延長の最大幅員を乗算
自転車歩行者道	1,534	3,501	(実延長、道路部面積) 町道台帳

### (2) 橋りょうの状況

本町の橋りょうは、次のとおりです。

表 2-15 本町の橋りょうの橋長と橋りょう面積

橋りょう	架設年数	本数	橋長 (m)	面積 (㎡)	備考
	50年以上	29	267	1,096	(実延長) 町道台帳 (橋りょう面積) 平泉町橋梁長寿命化計画 平泉町林道施設長寿命化計画 の橋りょう面積
	40年～49年	22	253	1,085	
	30年～39年	19	320	1,695	
	20年～29年	14	262	1,721	
	10年～19年	10	151	970	
合計	94	1,253	6,567		

### (3) 上水道の状況

本町の上水道と簡易水道の管径別の管路延長は、次のとおりです。

表 2-16 本町の上水道と簡易水道の管径別の管路延長

単位：m

項目	管径別	上水道	簡易水道	合計
導水管	300 mm未満	790	1,155	1,945
送水管	300 mm未満	3,915	7,141	11,056
配水管	50 mm以下	4,947	4,193	9,140
	51 mm～75 mm	27,590	28,690	56,280
	76 mm～100 mm	18,174	19,824	37,998
	100 mm～125 mm	35	—	35
	126 mm～150 mm	9,555	12,740	22,295
	151 mm～200 mm	1,587	5,959	7,546
	201 mm～250 mm	4,190	—	4,190
	251 mm～300 mm	175	0	175
総計		70,958	79,702	150,660

### (4) 下水道の状況

本町の公共下水道と農業集落排水の管径別の管路延長と管種別延長は、次のとおりです。

表 2-17 本町の公共下水道と農業集落排水の管径別の管路延長

単位：m

項目	管径別	公共下水道	農業集落排水	合計
管径別	250 mm以下	42,924	16,702	59,626
	251～500 mm	7,344	—	7,344
	501～1000 mm	460	—	460
総計		50,728	16,702	67,430

表 2-18 公共下水道と農業集落排水の管種別の管路延長

単位：m

項目	管種別	公共下水道	農業集落排水	合計
管種別	コンクリート管	8,919	135	9,054
	陶管	90	—	90
	塩ビ管	40,105	15,533	55,638
	その他	1,614	1,034	2,648
総計		50,728	16,702	67,430

## 第3章 公共施設等の維持管理・更新等にかかる中長期的な経費の見込み

### 1. 試算の考え方

#### (1) 試算の期間について

本計画における公共施設等の維持管理・更新等に係る中長期的な経費の見込み額（以下、今後の維持・管理コストという。）は、建物の長寿命化改修や大規模改造が必要とされる期間を考慮し、今後40年間を対象に算出します。

#### (2) 今後の維持・管理コストについて

今後の維持・管理コストを把握したうえで、「耐用年数で単純更新する場合（従来型）」（以下、従来型という。）と「長寿命化等対策を講じた場合（長寿命化型）」（以下、長寿命化型という。）におけるパターンで年間更新費用を算出します。

##### ① 公共施設

従来型については、保有量を見直しのうえ、文部科学省が公表した「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年3月）」及び「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属ソフト」（以下、解説書付属ソフトという。）の仕様に基づき算出された結果を用います。

長寿命化型については、保有量を見直しのうえ、従来型と同様の考え方で算出するほか、個別施設計画の算出結果がある場合、参考とします。

##### ② インフラ資産

従来型については、保有量を見直しのうえ、総務省が公表している「地方公共団体の財政分析等に関する調査報告書（平成23年3月、財団法人自治総合センター）」（以下、地方財政分析等調査報告書という。）の仕様に基づき算出された結果を用います。

長寿命化型については、保有量を見直しのうえ、従来型と同様の考え方で算出するほか、個別施設計画の算出結果がある場合、参考とします。

## 2. 公共施設等に係る充当可能な財源の見込み

公共施設等の今後の維持・管理コストを算出し比較するうえで、過去5年間の公共施設等にかかる充当可能な財源の見込みを把握し比較する必要があります。

過去5年間の公共施設等に係る充当可能な財源の見込み（投資的経費等の普通建設事業費、災害復旧事業費を除く。）は、今後の生産年齢人口減少幅（令和2（2020）年度と令和22（2040）年度比：43.0%減）から減収を想定し、1年あたり約7.93億円となります。

表3-1 公共施設等に係る充当可能な財源の見込み

単位：百万円

	H30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	平均値
公共施設	76	224	182	1,098	49	326
道路（町道、農道、林道）	647	712	420	314	117	442
橋りょう	35	23	30	22	27	28
上水道	134	185	206	263	158	189
簡易水道	163	158	150	200	117	158
下水道（農業集落排水含む）	276	276	256	233	211	251
合 計	1,331	1,578	1,245	2,130	680	1,393
合 計 今後の生産年齢人口減少を 想定した場合	758	898	708	1213	387	793

出典：平泉町財政データ

※10万円単位を四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。



### 3. 今後の維持・管理コスト（従来型）

公共施設等の今後の維持・管理コスト（従来型）は、40年間で約632.05億円（一年あたり約15.80億円）と見込まれます。充当可能な財源の見込みと比較し1年あたり約7.87億円の不足が生じると見込まれます。

表3-2 公共施設等に係る今後の維持・管理コスト（従来型）の考え方

公共施設		<p>保有量を見直しのうえ、解説書付属ソフトを用いて試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更新は、建築年度から50年と設定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>更新単価は「令和5年度新営予算単価（国土交通省監修）」を参考に、RC造・SRC造・S造は350,000円/m<sup>2</sup>、W造は410,000円/m<sup>2</sup>、その他は230,000円/m<sup>2</sup>と設定します。</li> <li>大規模改造は、建築年度から20年経過ごとに仮定します。</li> </ul>																	
	道路	<p>保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数を15年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>総面積を耐用年数の15年で割った面積（1/15）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>更新単価は、4,700円/m<sup>2</sup>と設定します。</li> <li>道路部面積に更新単価を乗じて算定します。</li> <li>道路台帳データの舗装道にのみ更新費用がかかると仮定します。</li> </ul>																	
	橋りょう	<p>保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数を60年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>現状が鋼橋の橋りょうについては、そのまま鋼橋にて更新し、それ以外の橋梁についてはPC橋で更新すると仮定します。</li> <li>更新単価は、鋼橋を500千円/m<sup>2</sup>、PC橋を425千円/m<sup>2</sup>と設定します。</li> <li>橋りょう面積に更新単価を乗じて算定します。</li> </ul>																	
	上水道	<p>保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数を40年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>総延長を耐用年数の40年で割った延長（1/40）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>管径ごとの延長に更新単価を乗じて算定します。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>上水道</th> <th>管径</th> <th>単価</th> <th>上水道</th> <th>管径</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">導水管 及び 送水管</td> <td rowspan="4">～300m未満</td> <td rowspan="4">100千円/m</td> <td rowspan="4">配水管</td> <td>～150mm以下</td> <td>97千円/m</td> </tr> <tr> <td>151mm～200mm</td> <td>100千円/m</td> </tr> <tr> <td>201mm～250mm</td> <td>103千円/m</td> </tr> <tr> <td>251mm～300mm</td> <td>106千円/m</td> </tr> </tbody> </table>	上水道	管径	単価	上水道	管径	単価	導水管 及び 送水管	～300m未満	100千円/m	配水管	～150mm以下	97千円/m	151mm～200mm	100千円/m	201mm～250mm	103千円/m	251mm～300mm
上水道	管径	単価	上水道	管径	単価														
導水管 及び 送水管	～300m未満	100千円/m	配水管	～150mm以下	97千円/m														
				151mm～200mm	100千円/m														
				201mm～250mm	103千円/m														
				251mm～300mm	106千円/m														
下水道	<p>保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数を50年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>総延長を耐用年数の50年で割った延長（1/50）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>管径ごとの延長に更新単価を乗じて算定します。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>下水道</th> <th>管種</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">下水道</td> <td>コンクリート管</td> <td rowspan="4">124千円/m</td> </tr> <tr> <td>陶管</td> </tr> <tr> <td>塩ビ管</td> </tr> <tr> <td>その他</td> </tr> </tbody> </table>	下水道	管種	単価	下水道	コンクリート管	124千円/m	陶管	塩ビ管	その他									
下水道	管種	単価																	
下水道	コンクリート管	124千円/m																	
	陶管																		
	塩ビ管																		
	その他																		

#### 4. 今後の維持・管理コスト（長寿命化型）

長寿命化型は、40年間で約566.06億円（一年あたり約14.15億円）と見込まれます。

長寿命化型の維持・管理を用いると従来型よりコストは抑制されますが、突発的な社会的要請や今後の人口減少による税収の減少などに備え、保有量の見直しなどを含めたマネジメント方針を積極的に行っていく必要があります。また、新規に整備すべき施設についてはその整備方針や事業手法等を十分に検討する必要があります。

表3-3 公共施設等に係る今後の維持・管理コスト（長寿命化型）の考え方

インフラ資産	公共施設	<p>保有量を見直しのうえ、各施設の今後の維持管理方針を踏まえ、施設の今後の維持管理方針をもとに、解説書付属ソフトを用い試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更新は、建築年度から80年と設定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>・更新単価は「令和5年度新営予算単価（国土交通省監修）」を参考に、RC造・SRC造、S造は350,000円/m<sup>2</sup>、W造は410,000円/m<sup>2</sup>、その他は230,000円/m<sup>2</sup>と設定します。</li> <li>・大規模改造は、建築年度から20年経過ごとに仮定します。</li> <li>・長寿命化改修は、建築年度から40年経過時に仮定します。</li> </ul>																						
	道路	<p><b>（従来型の試算と同様とします。）</b>          保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐用年数を15年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>・総面積を耐用年数の15年で割った面積（1/15）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>・更新単価は、4,700円/m<sup>2</sup>と設定します。</li> <li>・道路部面積に更新単価を乗じて算定します。</li> <li>・道路台帳データの舗装道にのみ更新費用がかかると仮定します。</li> </ul>																						
	橋りょう	<p>平泉町橋梁長寿命化計画における今後50年の予防保全における試算結果を50年で割った結果とします。（今後50年の予防保全的な修繕9.8億円/年あたり0.20億円）</p>																						
	上水道	<p><b>（従来型の試算と同様とします。）</b>          保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書の仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐用年数を40年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>・総延長を耐用年数の40年で割った延長（1/40）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>・管径ごとの延長に更新単価を乗じて算定します。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>上水道</th> <th>管径</th> <th>単価</th> <th>上水道</th> <th>管径</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導水管 及び 送水管</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">～300m 未満</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">100 千円/m</td> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">配水管</td> <td>～150mm 以下</td> <td>97 千円/m</td> </tr> <tr> <td>151mm～200mm</td> <td>100 千円/m</td> </tr> <tr> <td>201mm～250mm</td> <td>103 千円/m</td> </tr> <tr> <td>251mm～300mm</td> <td>106 千円/m</td> </tr> </tbody> </table>						上水道	管径	単価	上水道	管径	単価	導水管 及び 送水管	～300m 未満	100 千円/m	配水管	～150mm 以下	97 千円/m	151mm～200mm	100 千円/m	201mm～250mm	103 千円/m	251mm～300mm
上水道	管径	単価	上水道	管径	単価																			
導水管 及び 送水管	～300m 未満	100 千円/m	配水管	～150mm 以下	97 千円/m																			
				151mm～200mm	100 千円/m																			
				201mm～250mm	103 千円/m																			
				251mm～300mm	106 千円/m																			
下水道	<p><b>（従来型の試算と同様とします。）</b>          保有量を見直しのうえ、地方財政分析等調査報告書仕様に沿って試算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐用年数を50年と仮定し、試算の期間を40年間に設定します。</li> <li>・総延長を耐用年数の50年で割った延長（1/50）を毎年更新すると仮定します。</li> <li>・管径ごとの延長に更新単価を乗じて算定します。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>管種</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">下水道</td> <td>コンクリート管</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">124 千円/m</td> </tr> <tr> <td>陶管</td> </tr> <tr> <td>塩ビ管</td> </tr> <tr> <td>その他</td> </tr> </tbody> </table>							管種	単価	下水道	コンクリート管	124 千円/m	陶管	塩ビ管	その他									
	管種	単価																						
下水道	コンクリート管	124 千円/m																						
	陶管																							
	塩ビ管																							
	その他																							

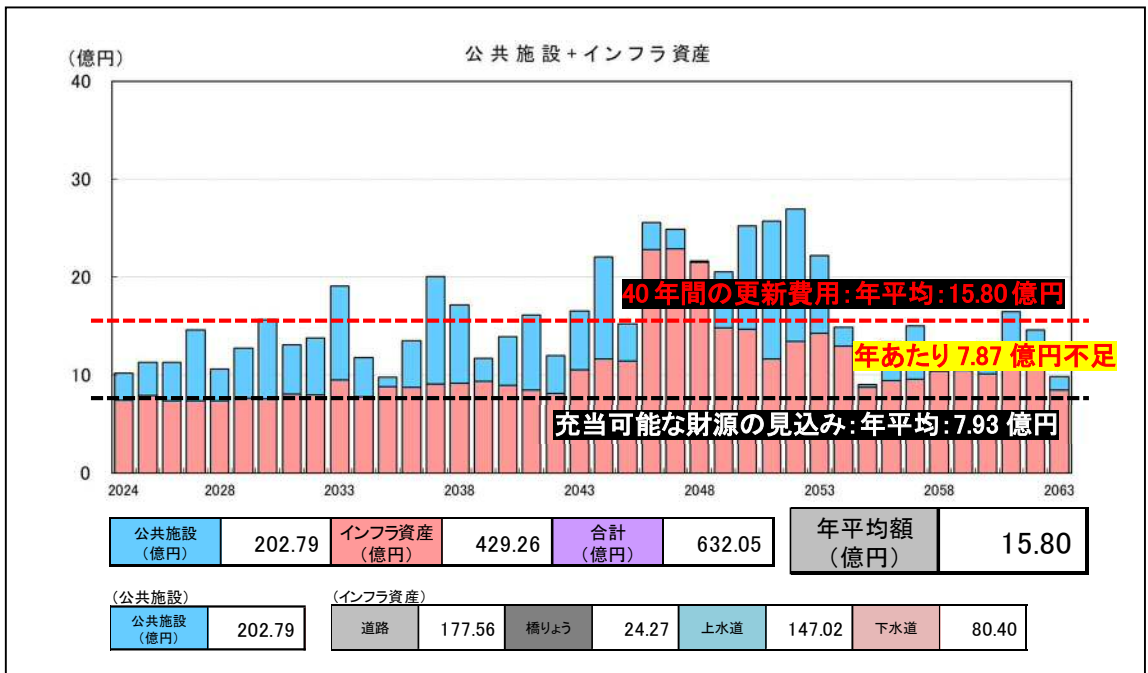


図3-1 今後の維持・管理コスト（従来型）

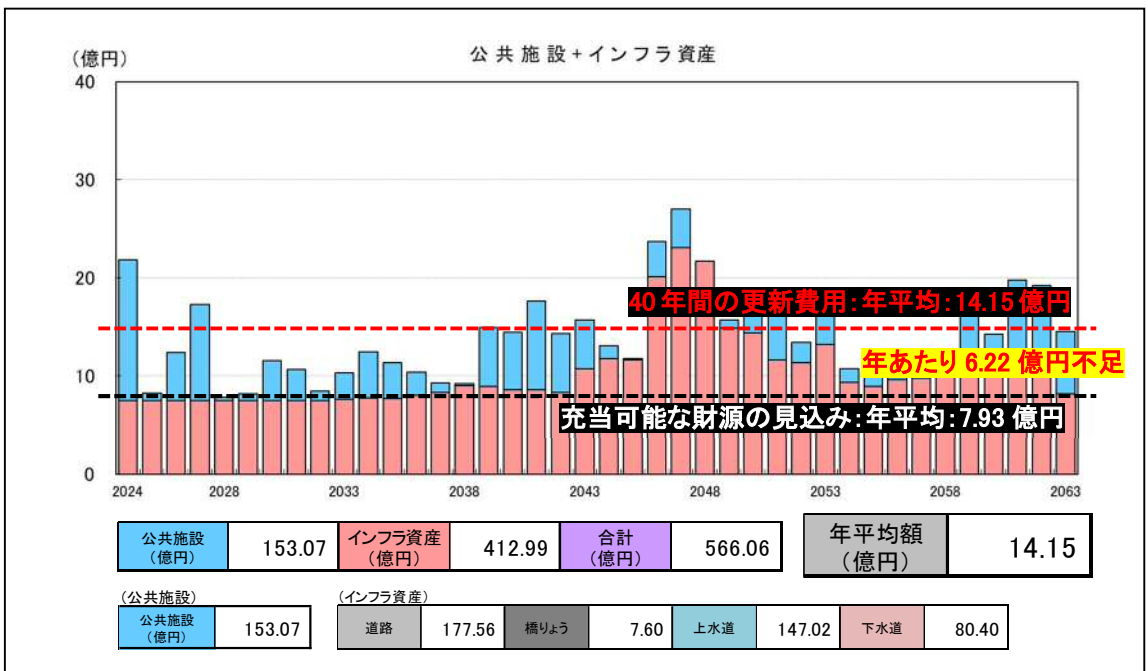


図3-2 今後の維持・管理コスト（長寿命化型）

## 5. 長寿命化対策の効果

今後の維持・管理コストについて、前項の従来型と長寿命化型を比較して、長寿命化対策の効果額を算出すると、今後40年間で約65.99億円（一年あたり約1.65億円）の圧縮となります。

長寿命化型の維持・管理を用いると従来型よりコストは抑制されますが、充て可能な財源の見込みより年平均の比較で約6.22億円が超過する見込みです。

突発的な社会的要請や人口減による税収の減少などに備え、統合・廃止・譲渡などを含めた保有量の見直しを積極的に行っていく必要があります。また、新規に整備すべき施設についてはその整備方針等を十分に検討する必要があります。

表3-4 長寿命化対策の効果

単位：億円

試算の種類	期間	公共施設	インフラ資産	合計
従来型の 維持・管理コスト (A)	40年間	202.79	429.26	632.05
	年平均	5.07	10.73	15.80
	充て可能な財源の見込み 年平均 (7.93 億円) との差額			7.87
長寿命化型の 維持・管理コスト (B)	40年間	153.07	412.99	566.06
	年平均	3.83	10.32	14.15
	充て可能な財源の見込み 年平均 (7.93 億円) との差額			6.22
長寿命化対策の効果額 (A) - (B)	40年間	49.72	16.27	65.99
	年平均	1.24	0.41	1.65
充て可能な財源の見込み 今後の生産年齢人口減少 を想定した場合	過去5年			39.64
	年平均			7.93

## 第4章 公共施設等に関する課題と管理等に関する基本的な方針

### 1. 現状や課題に関する基本認識

#### (1) 人口減少および少子高齢化による公共施設に対する町民ニーズの変化

本町の人口は、昭和 60（1985）年をピークに減少が続き、平成 27（2015）年時点では 7,868 人まで減少しています。今後もこの傾向は継続することが考えられ、年少人口、生産年齢人口の減少および老年人口の増加により、少子高齢化が見込まれます。なお、本町の人口ビジョンでは、総合戦略に基づき講じていく施策の効果により、人口減少がどの程度緩和することができるかシミュレーションを行っており、本町の将来人口目標は、令和 22（2040）年に 5,400 人程度を確保すると掲げています。

これらに伴う世代構成の変化により、子育て支援施設や学校教育系施設では余剰が発生し、高齢者を対象とした保健・福祉施設の需要が高まるなど、公共施設へのニーズが変化することが予想されます。町外へ人口流出のみならず、町内でも特定の地区に人口集中することも予想され、地区によって人口の増減や年齢構成等の推移も異なることが見込まれます。このような状況変化に合わせた、施設規模の見直し、既存公共施設の効率的な利活用や整備を通じ、町民ニーズに適切に対応する必要があります。

#### (2) 公共施設の老朽化、更新時期の集中

本町の公共施設の整備状況を建築年度別に延床面積で見ると、1980 年代後半から行政系施設や学校教育系施設が順次整備されてきたことで、今後、次々と老朽化や耐震化への対応が発生してきます。旧耐震基準が適用されていた時期である昭和 56（1981）年度以前に整備されたものは 16.5%（延床面積別）であり、これらの老朽化した公共施設については、施設の必要性の精査も行ったうえで、残すべき公共施設の点検や保全の維持管理の方向性など今後のあり方を検討していく必要があります。

現在本町が保有する公共施設等を、耐用年数経過後に従来同様に同じ規模（延床面積や整備数量）で更新したと仮定した場合、今後 40 年間の更新費用の総額は 632.05 億円で、試算期間における平均費用は年間 15.80 億円となります。また、大規模施設の更新にあたる年度は莫大な費用が必要となります。

将来を担う世代に過大な負担を強いることのないように検討していくことが必要です。

#### (3) 公共施設の重複および分散配置

公共施設の中には、機能が重複している施設や地理的な偏りがあるものもあります。人口や財政に応じた規模の縮小だけでなく、このような重複や偏りの解消も視野に入れた再配置を検討する必要があります。なお、再配置を検討する場合、町民の生活利便性を考慮し、各種サービスや機能が不足しないように配慮する必要があります。

## 2. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方

現状や課題に関する基本認識を踏まえつつ、人口構成など地域の特性や町民ニーズを踏まえながら、全庁的かつ長期的な視点に基づき、公共施設等の適切な管理・運営、安全で快適な利用環境を実現するため、以下の3つの視点を重視し、町民が必要とする行政サービスの維持・向上を図ることを基本方針とします。

### (視点1) 効率的・効果的な施設運営を図る

- ・利用者数の減少している施設は、利用実態及び需要の見通しなどを踏まえその原因を明らかにするとともに、利用者数の増加を図り、効率的な施設運営を検討します。
- ・公共施設の統廃合等により発生する空スペースや敷地は、民間への賃貸等による利用料金収入の確保、売却などにより公共施設の資産としての活用を検討します。
- ・受益者負担の原則という視点から、公共施設の利用実態とコスト負担の状況を検証し、料金設定や減免制度の見直し、使用料金のバランス等、負担の適正化を検討します。
- ・民間事業者のノウハウを活用した施設運営の効率化やサービスの質の向上を検討します。

### (視点2) 公共施設の長寿命化と計画的な施設整備を図る

- ・今後も継続していく必要がある公共施設については、定期点検や劣化状況調査を行い、計画的な修繕・改善を行い、施設の品質の保持や機能の改善に努めます。
- ・改修履歴のデータベース化により、これまでの「事後保全」の修繕から「予防保全」の修繕へ転換し、計画的な公共施設マネジメントを検討します。
- ・公共施設の改修等は、長寿命化を図り中長期的な保全計画（個別施設計画）に基づき、財政的な負担を平準化するなどライフサイクルコストの縮減を検討し、将来世代の負担を軽減します。

### (視点3) 将来を見据えた公共施設の再配置を図る

- ・将来の人口動向や財政状況を踏まえつつ、施設総量の縮減を図り、公共施設のコンパクト化及び、維持継続する施設の長寿命化を推進し、供給量の適正化を図ります。
- ・都市計画等のまちづくりと連動するなど利用状況や地域特性等に配慮し再配置の考え方を検討します。
- ・効率的な管理運営のため、複合化や集約化なども視野に入れ検討します。

### 3. 公共施設等の管理に関する方針

#### (1) 点検・診断等の実施方針

- ・現状行っている定期点検を引き続き適切に行っていきます。
- ・各所管課による点検・診断等の確実に実施しデータを蓄積することで、各施設の状況を全庁的に適時に把握していきます。
- ・修繕等の優先度を検討する際は、劣化診断等を実施するなどにより、経年による劣化状況、外的負荷（気候天候、使用特性等）による性能低下状況および管理状況を把握し、予防保全的な観点からの検討を行います。

#### (2) 維持管理・修繕・更新等の実施方針

- ・施設の重要度や劣化状況に応じて長期的な視点で優先度をつけて、計画的に改修・更新します。
- ・地域に対する公共施設の譲渡や民間への指定管理委託を進めるなど、町民主体の維持管理を進めていきます。
- ・維持管理を行っていくための財源を捻出するため、適切な受益者負担のあり方を検討します。
- ・維持管理や修繕に関する情報を蓄積していくことで、維持管理上の課題を適時に把握するとともに、今後の修繕に関する計画を立てるのに役立てます。
- ・町民ニーズの変化に柔軟に対応していくことを可能とするため、用途の変更も適宜検討します。

#### (3) 安全確保の実施方針

- ・点検・診断等により高度の危険性が認められた公共施設等について、ソフト・ハードの両面から安全を確保します。
- ・安全の確保に当たっては、地区の拠点となる施設や、災害時に活用する施設などの視点から、対応の優先度を検討します。
- ・今後維持していくことが難しい施設については、安全確保の観点から、使用停止、除却といった措置を適切にとっていきます。

#### (4) 耐震化の実施方針

- ・災害時に活用する施設かどうか、多数の町民の利用がある施設かどうかなどの視点から耐震化の優先順位を検討します。
- ・建築から一定年数以上経過した建物で、耐震化が完了していないものについては、耐震化の検討を進めていきます。
- ・道路、橋りょう、上下水道をはじめとするインフラについても耐震化の検討を進めていきます。

#### (5) 長寿命化の実施方針

- ・ 地区ごとに公共施設の耐用年数到来年度を把握し、短期間に施設の更新が集中しないように、長寿命化による対応を検討します。
- ・ 町民とともに、大切に公共施設を取り扱っていくことで、少しでも長く公共施設を利活用していけるようにしていきます。

#### (6) 統合や廃止の推進方針

- ・ 将来の人口の推移、財政状況を勘案し、公共施設の適切な規模を検討します。
- ・ 公共施設の類型ごとに必要な公共施設の総量を見直し機能の重複を解消していきます。その際は、公共施設の多機能集約化など、地域コミュニティの維持や、住民の生活利便性を確保することも意識して検討を行います。
- ・ 近隣市町村との広域連携を一層進めていき、広域の観点から必要な公共施設等の保有量を検討していきます。
- ・ インフラについても、必要性を十分に精査し、人口や財政状況に応じた保有量に抑えます。

#### (7) ユニバーサルデザイン化の推進方針

- ・ 岩手県では、全ての人が個人として尊重され自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会を目指して、「ひとにやさしいまちづくりの推進指針（2020～2024）」を策定しています。それを踏まえ、本町では、全ての人にやさしい公共施設のユニバーサル社会の構築を目指し、障がい者、高齢者にとどまらない、誰もが利用しやすい施設の整備を推進します。

#### (8) 脱炭素化の推進方針

- ・ 令和3年10月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」において、自治体の率先した脱炭素の取組が求められています。公共施設においては、省エネルギー対策の実施、改修・更新時の再生可能エネルギーの導入や活用を検討して脱炭素化を推進します。



## 第5章 施設類型別の管理等に関する基本的な方針

### 1. 行政系施設

#### (1) 現状や課題に関する基本認識

本庁舎は昭和 62 (1987) 年度に整備されています。新耐震基準以降の建築物であるものの、令和 5 (2023) 年度で 36 年が経過することから、適切な改修等を行うことが求められます。

消防施設として、一関西消防署平泉分署や平泉町コミュニティ消防センターのほか屯所があります。これらの中には昭和 56 (1981) 年以前に建てられた旧耐震基準の建築物があることから、適切に耐震化等を行う必要があります。

#### (2) 管理に関する基本的な考え方

本庁舎は日常的な行政サービスのほか、防災時の拠点ともなるため、適切な修繕や改修を行います。なお、将来的に庁舎の更新が行われる際には、他の機能も含めた複合化についても検討を行います。

消防施設のうち、屯所については、消防団の再編等に合わせた統廃合や、地区の集会施設との一体的整備など、地区の事情に合わせた更新も検討します。

#### (3) 利用状況・利用見込み

##### ① 庁舎 (1 施設 3 棟)

現在施設の利用者増減率及び利用見込 (平泉町の人口) は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況(人口)			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	本庁舎	7,330	7,232	-1.3%	-18.6%	

※利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021 (令和 2 年度時点の人口数と令和 12 年度推計人口の比較)

##### ② 消防施設 (14 施設 14 棟)

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率 (平泉町の人口) は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	一関西消防署平泉分署	7,330	7,232	-1.3%	-18.6%	全域
2	コミュニティセンター	1,513	1,473	-2.6%	-18.1%	平泉 (11 区、12 区)
3	消防屯所 1-3	447	436	-2.5%	-18.1%	平泉 (13 区)
4	消防屯所 2	198	196	-1.0%	-18.1%	平泉 (1 区)
5	消防屯所 3	1,318	1,286	-2.4%	-18.1%	平泉 (8 区、9 区、10 区)

No.	施設名	施設利用状況			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
6	消防屯所 4	791	787	-0.5%	-18.1%	平泉 (6 区、7 区)
7	消防屯所 4-2	278	260	-6.5%	-18.1%	平泉 (4 区、5 区)
8	消防屯所 5	354	349	-1.4%	-18.1%	平泉 (2 区)
9	消防屯所 6	214	198	-7.5%	-18.1%	平泉 (3 区)
10	消防屯所 6 コミセン	214	198	-7.5%	-18.1%	平泉 (3 区)
11	消防屯所 7	715	688	-3.8%	-20.0%	長島 (16、17、21 区)
12	消防屯所 8	182	175	-3.8%	-20.0%	長島 (18 区)
13	消防屯所 8-2	376	373	-0.8%	-20.0%	長島 (19 区、20 区)
14	消防屯所 9	743	718	-3.4%	-20.0%	長島 (14 区、15 区)

※利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021 (令和 2 年度時点の人口数と令和 12 年度推計人口の比較)  
 利用圏域が全域以外の場合…平泉町地区集計値 (各地区の令和 2 年度時点の人口数と令和 12 年度推計人口の比較)

#### (4) 施設管理に関する基本的な方針

##### ① 庁舎 (1 施設 3 棟)

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
庁舎	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	行政サービス提供の拠点として、今後も継続します。

##### ② 消防施設 (14 施設 14 棟)

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
一関西消防署平泉分署	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
コミュニティセンター	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
消防屯所 1-3	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 2	老朽化が進行	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 3	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 4	老朽化が進行	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 4-2	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
消防屯所 5	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 6	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 6 コミュニティセンター	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 7	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 8	老朽化が進行	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 8-2	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。
消防屯所 9	老朽化が進行	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。消防団の規模等を踏まえ、本施設又は近隣施設の改修・建替時に集約化・複合化を検討します。

## (5) マネジメント方針

### ① 庁舎（1施設3棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○本庁舎は、町民が日々の暮らしを快適に過ごすための総合的な窓口として、各種行政サービスを提供し、地方自治を体現するための施設です。
現状と課題	○本庁舎は築36年以上経過していますが、施設状況は築年数に対して比較的良好な状態にあり、現在は必要に応じて部分的補修及び設備の更新により対応しています。 ○人口減少により、庁舎が手狭になることはなく、現状維持で機能しています。しかしながら、一部設備については、安全性の観点等から近年中の更新が必要となっています。今後も長期的かつ安全な利用を図るため、計画的な予防保全に努める必要があります。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検の徹底をはかり、施設の状況を把握しながら、計画的な保全管理に努めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて必要に応じて省エネ対応の設備等への更新を図り、維持管理コストの縮減を図ります。また、維持管理に係る委託業務については、毎年度見直しをしながらコスト縮減に努めます。
施設の最適化	○施設の建て替えや更新時期には、利用者の多様なニーズへの対応と必要なサービスの提供をすることを前提とし、施設のあり方を検討し、最適化を行います。
利用者の安全確保	○修繕が必要な箇所を発見した場合は速やかに対応措置や早期の修繕等を行い、利用者の安全の確保に努めます。

② 消防施設（13 施設 14 棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○防災施設は、各地域の消防団の活動拠点であり、消防車両等の格納している車庫詰所や災害時に対応するための防災資材の保管する施設など、地域における防災機能を高めるとともに防災活動の拠点となります。
現状と課題	○消防施設は大半が築 20 年以上経過していますが、施設の老朽化に対して部分的補修で対応。 ○施設の老朽化の状況を踏まえた改修や更新の計画を策定することが必要です。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検の徹底をはかり、施設の状況を把握しながら、計画的な保全管理に努めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて必要に応じて省エネ対応の設備等への更新を図り、維持管理コストの縮減を図ります。また、維持管理に係る委託業務については、毎年度見直しをかけながらコスト縮減に努めます。
施設の最適化	○施設の建て替えや更新時期には、利用者の多様なニーズへの対応と必要なサービスの提供をすることを前提とし、施設のあり方を検討し、最適化を行います。
利用者の安全確保	○修繕が必要な箇所を発見した場合は速やかに応急措置や早期の修繕等を行い、利用者の安全の確保に努めます。

## 2. 保健・福祉施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

保健センターが昭和 58（1983）年度に整備されています。また、健康福祉交流館が平成 12（2000）年度に整備されています。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

今後しばらくは高齢化に伴い、高齢福祉施設に対する需要の増加が見込まれますが、さらに将来は、高齢者人口も減少に転じると推計されていることも踏まえながら、適切な施設規模を検討していきます。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 保健・福祉施設（2施設2棟）

保健センターの利用者増減率及び利用見込増減率（平泉町の人口）は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

健康福祉交流館の利用者増減率及び利用見込増減率（観光者入込数）は、増加傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	保健センター	6,282	6,113	-2.7%	-18.6%	
2	健康福祉交流館	73,825	82,476	11.7%	60.5%	

※保健センター：利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021（令和2年度時点の人口数と令和12年度推計人口の比較）

健康福祉交流館：利用圏域が全域の場合…令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
保健センター	比較的良い状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
健康福祉交流館	比較的良い状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。 今後、設備の老朽化のため更新費用が多額になることが予想されます。民間資本等の活用を含め、将来的な運営方針を検討する必要があります。

### (5) マネジメント方針

保健センターは令和5（2023）年度に築40年以上経過します。施設の老朽化の状況を踏まえて改修や更新の計画を検討することが必要です。

健康福祉交流館は、施設を長寿命化し利用者の安全確保をしつつ、維持管理コストを勘案し今後の方針について総合的に検討を行います。

① 保健・福祉施設（2施設2棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○保健・福祉施設は、町内もしくは町外の希望する人が健康の保持と療養、また在宅介護の充実を図るために必要なサービスを提供する施設です。
現状と課題	○保健センターは令和5（2023）年度に築40年以上経過しますが、施設の老朽化に対して当面事後保全で対応します。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況を元に予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて省エネを進め、維持管理コストの縮減を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

### 3. 学校教育系施設

#### (1) 現状や課題に関する基本認識

町内には、平泉小学校、長島小学校、平泉中学校が立地しており、延床面積では公共施設の31.5%を占めています。

今後の少子化は、生徒数や学級数の減少によって学校の運営に影響すると想定されますが、学校は地区の中心としての役割を持つことから、その適切な維持、管理を行うことが求められます。

#### (2) 管理に関する基本的な考え方

学校は、児童・生徒が日常的に使用する施設であり、災害時にも重要な役割を持つため、適切な維持、管理を行います。

また、地区の中心的な施設であることから、行政サービス機能の確保やコミュニティの活性化、子育て支援サービスの向上につながる児童クラブの運営など、施設の積極的な活用や機能の複合化を推進します。

#### (3) 利用状況・利用見込み

##### ① 学校教育系施設（3施設 14棟）

現在施設の利用者増減率は、各施設とも横ばい傾向にあります。利用見込増減率は、年少人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況(児童数、生徒数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	平泉小学校	268	260	-3.0%	-24.4%	
2	平泉中学校	182	181	-0.5%	-24.4%	
3	長島小学校	79	77	-2.5%	-32.3%	

※利用圏域が全域以外の場合…平泉町人口ビジョン2021（各地区の令和2年度時点の年少人口と令和12年度推計の年少人口の比較）

#### (4) 施設管理に関する基本的な方針

##### ① 学校教育系施設（3施設 14棟）

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
平泉小学校	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための点検と修繕を実施します。改修等を施設ごとの優先順位を確認し進めます。
平泉中学校	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための点検と修繕を実施します。改修等を施設ごとの優先順位を確認し進めます。
長島学校	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための点検と修繕を実施します。改修等を施設ごとの優先順位を確認し進めます。

## (5) マネジメント方針

学校教育系施設は、平泉町学校施設長寿命化計画（令和2年3月、平泉町教育委員会）を踏まえ、今後の学校の在り方と基本的な方針をもとに、利用者の安全・安心のため施設の劣化状況の把握を適切に行うとともに、限られた財源の中維持保全の優先順位を勘案した中長期的な計画を推進します。

### ① 学校教育系施設（3施設 14棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○町内には、平泉小学校、長島小学校、平泉中学校が立地しており、延床面積では公共施設の31.5%を占めています。
現状と課題	○今後の少子化は、生徒数や学級数の減少によって学校の運営に影響すると想定されますが、学校は地区の中心としての役割を持つことから、その適切な維持、管理を行うことが求められます。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○適切な利用と維持管理を行い建物の長寿命化に努めます。また、施設の改築を行う場合には、実施時期の決定に合わせ、適正規模や適正配置を検討するほか、設計時に長寿命化に適する部材や機材の選定を実施します。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○適切な保全と計画的な修繕を実施することで、突発的な修繕や機能障害を防ぎ、中長期的なコストの平準化を図ります。
施設の最適化	○防災の拠点、生涯学習、文化、スポーツ、地域学校共同活動などの地域活動の中心として、学校施設の利活用を推進できるように、バリアフリー化などの対応も推進します。
利用者の安全確保	○防犯性の向上のほか、社会的要請に答え、児童・生徒の安全性や快適性などが質的に保たれた施設環境の整備を推進します。



## 4. 子育て支援施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

町内には、幼稚園、保育所、保育施設の4施設が整備されています。

今後は、少子化にともない利用する児童数が減少していくことが想定されるため、ニーズ等を踏まえながら、施設運営のあり方を検討する必要があります。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

新耐震基準で建築された比較的新しく建てられた公共施設であるため、適切な維持・管理を行います。

施設の運営コスト面や利用者のニーズなどを踏まえながら、公立幼稚園や保育所等の施設運営のあり方や施設の供給量の検討を行っていきます。なお、必要とする施設の規模に応じて、小中学校施設との複合化についても検討します。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 子育て支援施設（4施設4棟）

現在施設の施設利用者数は、減少傾向にあります。また、利用見込み増減率は年少人口減少に伴い減少傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(園児数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	平泉町立幼稚園	30	27	-10.0%	-24.4%	当該年度未入所者
2	平泉保育所	110	108	-1.8%	-24.4%	当該年度未入所者
3	すぎの子クラブ	63	62	-1.6%	-26.3%	当該年度未入所者
4	長島保育所	83	68	-18.1%	-32.3%	当該年度未入所者

※利用圏域が全域以外の場合…平泉町人口ビジョン2021（各地区の令和2年度時点の年少人口と令和12年度推計の年少人口の比較）

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
平泉町立幼稚園	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 本施設又は近隣施設の改修・建替等の時期に合わせ、管理運営や整備手法を検討の上、財源の多様化を図ります。
平泉保育所	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 本施設又は近隣施設の改修・建替等の時期に合わせ、管理運営や整備手法を検討の上、財源の多様化を図ります。
すぎの子クラブ	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 本施設又は近隣施設の改修・建替等の時期に合わせ、管理運営や整備手法を検討の上、財源の多様化を図ります。

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
長島保育所	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施。 本施設又は近隣施設の改修・建替等の時期に合わせ、管理運営や整備手法を検討の上、財源の多様化を図ります。

## (5) マネジメント方針

### ① 子育て支援施設（4施設4棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	<p>○子育て支援施設は、次代を担う子どもたちが、明るく健やかに成長する環境づくりのため、また、楽しい雰囲気の中で、健全な遊びを通して運動に親しむ習慣を形成し、体力の増進をはかるなど、親子連れなどに利用されている施設です。</p> <p>○保育所は、就労などのため家庭で保育できない保護者に代わって児童等を保育することを目的とする施設を対象とします。</p> <p>○児童クラブは、小学校児童の適切な遊び場又は安全・安心な居場所を提供し、児童の健全な育成を図るための施設です。</p>
現状と課題	○施設については、老朽化に対して部分的補修で対応。施設の老朽化の状況を踏まえた改修や更新の計画を策定することが必要です。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況をもとに予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及びPPP/PFIの推進	○施設や設備の改修、更新に合わせて省エネ化を進めるとともに、平泉町PPP/PFI手法導入優先的検討指針を積極的に導入することにより、維持管理コストの縮減を図ります。 また、施設の大規模改修や更新整備手法を検討する際には、平泉町PPP/PFI手法導入優先的検討指針による可能性調査を踏まえ、施設の役割を勘案しつつ積極的な導入を検討します。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## 5. スポーツ・レクリエーション系施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

スポーツ・レクリエーション施設は、長島球場、長島体育館、テニスコート、大文字キャンプ場、木工芸館が整備され、ほとんどが長島地区に立地しています。

新耐震基準で建築された比較的新しい公共施設ですが、昭和 62 (1987) 年度～平成 4 (1992) 年度に整備された施設が、一度に更新のタイミングが来ることも想定されます。

専門的な施設については、近隣自治体を含めた広域的視点で検討する必要があります。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

体育館など地域の住民が利用する施設については、利用状況などを考慮して今後の更新を検討していきます。特に、著しく利用者数の少ない施設や利用者に偏りがある施設については、学校教育系施設の活用なども含めて今後のあり方を検討します。

広域利用が可能な施設については、本町だけでなく周辺自治体との共同利用など、広域的な観点での配置を検討していきます。

また、PPP/PFI の導入可能性や民間移譲なども検討し、民間や地域を巻き込んだ町の活性化を実現する観点から施設のあり方を見直していきます。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① スポーツ施設 (3 施設 4 棟)

長島体育館以外の施設の利用状況は減少傾向にあります。利用見込増減率は、どの施設も人口減少に伴い減少の見込みです。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	クラブハウス	2,401	2,063	-14.1%	-18.6%	施設利用者数
2	長島球場	2,720	1,432	-47.4%	-18.6%	施設利用者数
3	長島球場トイレ	-	-	-	-	
4	長島体育館	1,312	1,486	13.3%	-18.6%	施設利用者数

※利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021 (令和 2 年度時点の人口数と令和 12 年度推計人口の比較)

#### ② レクリエーション施設 (2 施設 6 棟)

現在施設の利用者増減率は、増加傾向にありますが、施設によりばらつきがあります。

また、町外からの利用者が多いことから、町内の人口を加味しても微増となる見込みです。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率	備考
		R3	R4	増減率		
1	大文字キャンプ場	278	286	2.9%	2.0%	施設利用者数
2	大文字キャンプ場 展望施設 1	-	-	-	-	

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込 増減率	備考
		R3	R4	増減率		
3	大文字キャンプ場 展望施設 2	-	-	-	-	
4	大文字キャンプ場 休憩施設 1	-	-	-	-	
5	大文字キャンプ場 休憩施設 2	-	-	-	-	
6	木工芸館	2,118	2,353	11.1%	2.0%	施設利用者数

#### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
長島球場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
長島球場 トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
長島体育館	比較的良好な状態	利用状況に問題がある	継続	機能維持のための修繕を実施します。
大文字キャンプ場 管理棟	比較的良好な状態	利用状況が良い	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。近隣施設の改修・建替時に集約・複合化を検討します。
テニスコートクラブハウス	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
大文字キャンプ場 展望施設 1	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
大文字キャンプ場 展望施設 2	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
大文字キャンプ場 休憩施設 1	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
大文字キャンプ場 休憩施設 2	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
木工芸館	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。

#### (5) マネジメント方針

##### ① スポーツ施設 (3施設4棟)

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○町民が健康の保持増進や体力の維持・向上を図り、生涯にわたって明るく豊かな生活を営むこと、また、一人ひとりが日常生活にスポーツをとり入れ、それぞれの地域においてスポーツを気軽に楽しむことを目的にスポーツ施設を設置しています。
現状と課題	○施設の老朽化に対して部分的補修で対応します。 また、利用見込みも人口減少に伴い減少傾向を見込まれます。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況を元に予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設や設備の改修、更新に合わせて省エネ化を進めるとともに、平泉町 PPP / PFI 手法導入優先的検討指針を積極的に導入することにより、維持管理コストの縮減を図ります。 また、施設の大規模改修や更新整備手法を検討する際には、平泉町 PPP / PFI 手法導入優先的検討指針による可能性調査を踏まえ、施設の役割を勘案しつつ積極的な導入を検討します。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## ② レクリエーション系施設（2施設6棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○町民が気軽に自然と触れ合い、生涯にわたって心身ともに健康な生活を活を営むこと、また、一人ひとりが森林に対する理解を深めることなどを目的にレクリエーション施設を設置しています。
現状と課題	○施設の老朽化に対して部分的補修で対応します。 レクリエーション人口が増加傾向にあることから、大部分の施設では利用者数の増加が見込まれます。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況を元に予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設や設備の改修、更新に合わせて省エネ化を進めるとともに、平泉町 PPP / PFI 手法導入優先的検討指針を積極的に導入することにより、維持管理コストの縮減を図ります。 また、施設の大規模改修や更新整備手法を検討する際には、平泉町 PPP / PFI 手法導入優先的検討指針による可能性調査を踏まえ、施設の役割を勘案しつつ積極的な導入を検討します。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## 6. 産業系施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

農産物加工直売施設は、平成 21（2009）年度に整備されています。また、道の駅平泉は、平成 28（2016）年度に整備されています。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

農産物加工直売施設及び道の駅平泉は、農業の振興と観光魅力の向上に資する施設として、今後も重要な役割を果たすことから、適切な維持、管理、設備の更新を行うことが求められます。

運営にあたっては、指定管理制度の管理を継続します。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 産業系施設（2施設2棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率（観光者入込数）は、増加傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	農産物加工直売施設	9,303	15,101	62.3%	60.5%	
2	道の駅平泉	1,023,565	1,253,312	22.4%	60.5%	

※利用圏域が全域の場合…令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
農産物加工直売施設	比較的良好な状態	利用状況が良い	民間活用	指定管理者制度を活用し、管理運営を指定管理者に管理委託します。
道の駅平泉	比較的良好な状態	利用状況が良い	民間活用	指定管理者制度を活用し、管理運営を指定管理者に管理委託します。

### (5) マネジメント方針

#### ① 産業系施設（2施設2棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○産業系施設は、地域における地場産品活用の拠点施設であり、農産物加工直売施設においては、地域特産品の加工場として、また、道の駅平泉は情報拠点機能のほか防災拠点機能も有しており、地域活性化の活動拠点となっています。
現状と課題	○産業系施設は、築15年以下であり施設の老朽化は見られませんが、今後、年数を経過することで施設の老朽化が見込まれるため、部分的な補修が必要となります。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況を元に予防保全による計画的な改修を進めます。

今後のあり方	
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて省エネを進め、維持管理コストの縮減を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた場合は、速やかに応急措置や早期の除却を検討します。

## 7. 公営住宅

### (1) 現状や課題に関する基本認識

公営住宅は全て平泉地区内に整備されており、公共施設面積の26.7%を占めています。その中でも、古い住宅は1960年代に建築されたものがあり、老朽化が進んでいます。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

今後の人口減少を踏まえ、公営住宅の適切な供給量を検討する必要があります。そのため、老朽化が進んでいる住宅の更新については慎重に検討する必要があります。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 公営住宅（5施設 20棟）

現在の公営住宅の居住者数は、次のとおりです。

No.	施設名	施設利用状況(居住者数)			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	花立住宅	10	9	-10.0%	-100.0%	
2	大沢住宅	1	1	0.0%	-100.0%	
3	大佐住宅	6	6	0.0%	-100.0%	
4	高田前住宅	61	55	-9.8%	-25.5%	
5	上野台住宅	56	55	-1.8%	0.0%	

※利用圏域が全域の場合…平泉町公営住宅長寿命化計画（ストック数推計の比較）

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
花立住宅	老朽化が進行	利用状況に問題がある	民間活用	用途廃止を予定します。 平泉町公営住宅長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
大沢住宅	老朽化が進行	利用状況に問題がある	民間活用	用途廃止を予定します。 平泉町公営住宅長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
大佐住宅	老朽化が進行	利用状況に問題がある	民間活用	用途廃止を予定します。 平泉町公営住宅長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
高田前住宅	老朽化が進行（一部）	利用状況に問題がある	継続	個別改善を予定します。 平泉町公営住宅長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。
上野台住宅	比較的良い状態	利用状況が良い	継続	維持管理を予定します。 平泉町公営住宅長寿命化計画に基づき適切な維持管理を実施します。



## (5) マネジメント方針

公営住宅は、「平泉町公営住宅長寿命化計画（令和3年1月、平泉町）」を踏まえ、将来的な需要見通しを考慮したうえで、各団地・各住棟のあり方を検討し、団地別・住棟別の活用手法や維持管理の方針のもと、町営住宅全体の効率的・効果的な維持管理を推進します。

### ① 公営住宅（5施設20棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○本町の町営住宅は、住宅に困窮する低所得者に対して良質な住宅を供給することを目的に建設され、令和2年8月末時点において、町営住宅ストックを206戸有しています。
現状と課題	○本町の町営住宅全てに対し一斉に建替事業を行っていくことは、コストの観点からも難しく、安全性や居住性が確保された良質なストックは、中長期的な維持管理計画を策定し、適切な管理を行うことで、長期的に活用していくことが求められています。
今後のあり方	
施設の長寿命化	○各団地・各住棟の適切な維持管理については、各ストックの特性や過去の改修履歴を踏まえて検討するとともに、ライフサイクルコスト（LCC）の低減に努めます。 ○既存ストックの有効活用にあたり、適切な改善・改修等の手法を採用することで、ストックの長寿命化を図ります。 ○町営住宅の状況、修繕履歴等は管理データとして整備することとし、あわせて、町営住宅の定期点検を行い、予防保全的な維持管理の実施に努めます。
施設の維持管理コストの縮減及びPPP/PFIの推進	○効率的な修繕や改善を実施していくため、修繕の標準周期をもとに、定期点検を充実し、ストックの長寿命化を図ることで、ライフサイクルコスト（LCC）の削減に努めます。
施設の最適化	○町営住宅ストックの適切なマネジメントを行うため、町営住宅のストックの状況を適切に把握し、管理に努めます。
利用者の安全確保	○事後保全型の維持管理から、建物の老朽化や劣化による事故、居住性の低下等を未然に防ぐ、予防保全的な維持管理への転換を図ります。

## 8. 社会教育系施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

平泉文化遺産センターと平泉町学習交流施設（エピカ）が整備されています。平泉町学習交流施設（エピカ）は、令和3（2021）年度に新規整備された複合化施設です。

平泉文化遺産センターは、歴史の町平泉の情報発信のための重要な施設であるため、今後も積極的な活用が求められます。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

平泉町学習交流施設（エピカ）については、予防保全による計画的な改修をすすめ、適切な維持、管理を行います。

文化遺産センターは、多くの観光客が訪れるように展示内容や運営方法の工夫を行うとともに、町民も積極的に利用できるような施設のあり方を検討します。

### (3) 利用状況・利用見込み

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率（平泉町の人口）は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

#### ① 社会教育系施設（2施設3棟）

平泉文化遺産センターの利用者増減率及び利用見込増減率は、増加傾向にあります。

平泉町学習交流施設（エピカ）は、令和3（2021）年度に新規整備された複合化施設です。利用見込増減率は人口減少に伴い減少傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率 <sup>※</sup>	備考
		R3	R4	増減率		
1	平泉文化遺産センター	18,057	33,886	87.7%	60.5%	施設利用者 (収蔵庫棟は除く)
2	平泉町学習交流施設 (エピカ)	-	52,189	100.0%	-18.6%	

※平泉文化遺産センター：令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

平泉町学習交流施設（エピカ）：利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン2021（令和2年度時点の人口数と令和12年度推計人口の比較）

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
平泉文化遺産センター	比較的良好な状態	利用状況に問題がある	継続	予防保全による計画的な改修をすすめ、施設の長寿命化を図り維持管理します。
平泉町学習交流施設 (エピカ)	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	予防保全による計画的な改修をすすめ、施設の長寿命化を図り維持管理します。

## (5) マネジメント方針

### ① 社会教育系施設（2施設3棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○教育・文化の振興など文化活動や地域活動等の様々な拠点として利用されている施設です。それぞれの設置目的に応じた自主事業や地域活動の支援など活動の場の提供も行っています。
現状と課題	○施設の老朽化に対して部分的補修で対応します。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設の老朽化状況を元に、予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及びPPP/PFIの推進	○施設や設備の改修、更新に合わせて省エネ化を進めるとともに、平泉町PPP/PFI手法導入優先的検討指針を積極的に導入することにより、維持管理コストの縮減を図ります。 また、施設の大規模改修や更新整備手法を検討する際には、平泉町PPP/PFI手法導入優先的検討指針による可能性調査を踏まえ、施設の役割を勘案しつつ積極的な導入を検討します。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は、速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## 9. 町民文化系施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

平泉町公民館長島分館が平成 21（2009）年度に整備されています。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

地区の住民のコミュニティ活性化に資する施設として、積極的に活用できるよう、適切な維持、管理が求められます。

建物の更新の際には、利用者数や活用内容を踏まえ、教育施設などの他の施設との複合化なども含めて、公民館のあり方を検討する必要があります。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 町民文化系施設（1施設1棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	平泉町公民館 長島分館	2,489	1,537	-38.2%	-20.0%	施設利用者数

※利用圏域が全域以外の場合…平泉町人口ビジョン 2021（各地区の令和 2 年度時点の人口と令和 12 年度推計の人口の比較）

### (4) 施設管理に関する基本的な方針

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
平泉町公民館 長島分館	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	予防保全による計画的な改修をすすめ、施設の長寿命化を図り維持管理します。

### (5) マネジメント方針

平泉町公民館長島分館は、予防保全による計画的な改修をすすめ長寿命化するとともに利用者の安全確保を行います。

#### ① 町民文化系施設（1施設1棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○教育・文化の振興など、文化活動や地域活動等の様々な拠点として利用されている施設です。それぞれの設置目的に応じた、自主事業や地域活動の支援など活動の場の提供も行っています。
現状と課題	○施設の老朽化に対して部分的補修で対応します。
今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設の老朽化状況を元に、予防保全による計画的な改修を進めます。

今後のあり方	
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて省エネを進め、維持管理コストの縮減を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○法定点検等により劣化した箇所や危険性が認められた場合は、速やかに応急措置や早期の除却を検討します。

## 10. 上水道施設および下水道施設（公共施設、管路）

### （１）現状や課題に関する基本認識

上水道施設として浄水場、ポンプ場のほか、下水道施設としてクリーンセンターが整備されています。上水道施設は、整備からすでに30年以上経過している建築物があり、今後の維持・更新が必要になっています。

上水道の管路延長は70,958m、簡易水道の管路延長は79,702mが整備されています。

### （２）管理に関する基本的な考え方

上水道施設および下水道施設は、町民生活に直結する重要な施設であるため、定期的な施設の点検・修繕を実施し、安定したサービスの提供に努めます。

### （３）利用状況・利用見込み

#### ① 上水道施設（11施設11棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況(人口)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	戸河内浄水場	204	188	-7.8%	-18.1%	3区
2	平泉浄水場	4,841	4,702	-2.9%	-18.1%	平泉地区
3	窟地区ポンプ場	108	103	-4.6%	-18.1%	4区（田代除く）
4	上窟ポンプ場	108	103	-4.6%	-18.1%	4区（田代除く）
5	小金沢加圧ポンプ場	473	464	-1.9%	-18.1%	7区
6	西風加圧ポンプ場	170	157	-7.6%	-18.1%	5区
7	御堂の沢加圧ポンプ場	170	157	-7.6%	-18.1%	5区
8	長島浄水場	1,822	1,774	-2.6%	-20.0%	長島地区（舞川除く）
9	束稲第1ポンプ室	170	166	-2.4%	-20.0%	17区（舞川除く）
10	束稲第2ポンプ室	182	175	-3.8%	-20.0%	18区（舞川除く）
11	東岳ポンプ室	182	175	-3.8%	-20.0%	18区（舞川除く）

※利用圏域が全域以外の場合…平泉町人口ビジョン2021（各地区の令和2年度時点の人口と令和12年度推計の人口の比較）

#### ② 下水道施設（1施設1棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率は、人口の減少に伴い減少傾向にあります。

No.	施設名	施設利用状況(人口)			利用見込増減率	備考
		R3	R4	増減率		
1	長島中央地区 クリーンセンター	7,330	7,232	-1.3%	-18.6%	

※利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン2021（令和2年度時点の人口数と令和12年度推計人口の比較）

#### (4) 施設管理に関する基本的な方針

##### ① 上水道施設 (11 施設 11 棟)

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
戸河内浄水場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
平泉浄水場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
窟地区ポンプ場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
上窟ポンプ場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
小金沢加圧ポンプ場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
西風加圧ポンプ場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
御堂の沢加圧ポンプ場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
長島浄水場	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
東稲第 1 ポンプ室	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
東稲第 2 ポンプ室	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
東岳ポンプ室	老朽化が進行	利用状況が良い	継続	今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。

参考：平泉町水道事業経営戦略、平泉町簡易水道事業経営戦略

##### ② 下水道施設 (1 施設 1 棟)

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
長島中央地区 クリーンセンター	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	下水道の更新費用の明確化を図り、計画的かつ効率的な改築や更新を実施し、ライフサイクルコストの軽減を図ります。

参考：平泉町下水道事業経営戦略、平泉町農業集落排水事業経営戦略

## (5) マネジメント方針

### ① 上水道施設 (11 施設 11 棟)

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○平泉町水道事業経営戦略等に基づき、人口動向や将来の水需要の動向を踏まえながら、適正な施設能力の確保に努め、安定した水の供給を確保する必要があります。
現状と課題	○少子化傾向により、人口減少の時代の到来、節水型社会への変化などを踏まえつつ、限られた財源の中で効率的な施設整備や維持管理・運営が求められています。
今後のあり方	
施設の長寿命化	○今後の更新需要が増加するため、建設事業計画に基づき、計画的・効率的な更新や維持管理・運営を行います。
施設の維持管理コストの縮減及び広域圏での連携等	○経営基盤の強化、経営効率化の推進等を図るため、県内水道事業者間での広域的な連携強化を検討します。
施設の最適化	○町民生活に直結する重要な施設であるため、定期的な施設の点検・修繕を実施し、安定したサービスの提供に努めます。
利用者の安全確保	○安全・安心な水道水の確保のため、水質基準に適合した水を、いつでも安心して飲める水道水を供給します。また、十分な取水量を確保するために、導水管の定期的な洗浄や取水ポンプの更新による取水ポンプの維持に努めます。 ○安定した給水の確保と災害・非常時対策として、施設の整備・更新はアセットマネジメントの実施による施設の状況を確認し、適切に行い、安定的な給水機能を維持向上させます。 ○地震時にも被害を最小にし、早期回復が図れるよう、主要施設の耐震化を進めます。また、地震などの非常時の対応については、平泉町地域防災計画や平泉町水道施設災害対策マニュアルに従い迅速な対応を行います。

### ① 下水道施設 (1 施設 1 棟)

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○下水道は、地域住民の快適な居住環境を確保するとともに、生活雑排水や事業所排水などによる公共用水域の水質悪化を防ぎ、公共用水域の良好な水環境を維持保全するために欠かせない施設です。
現状と課題	○下水道施設は、維持管理や改築更新に重点を置いた経営の時代に入ろうとしています。一方、少子高齢化の進行、生活様式の多様化、省資源化、経済成長の鈍化など、社会潮流は転換期を迎えており、これらは下水道事業の今後の経営にも大きな影響を及ぼすことが予想されます。
今後のあり方	
施設の長寿命化	○下水道の更新費用の明確化を図り、計画的かつ効率的な改築や更新を実施し、ライフサイクルコストの軽減を図ります。
施設の維持管理コストの縮減及び広域圏での連携等	○公共下水道については、供用開始当時から磐井川流域下水道に接続して、一関浄化センターで汚水の処理を行っています。
施設の最適化	○平成 28 (2016) 年度において計画区域を 325ha を 202.6ha に縮小し、当該区域 122.4ha は合併処理浄化槽処理区域に変更しています。
利用者の安全確保	○下水道事業は、快適で住みよい居住環境づくりと河川や湖沼等の公共用水域の水質汚濁の防止・改善、循環型社会形成への貢献度、多面的な機能を持ち、人々の生活に大きな役割を果たします。 ○地震などの非常時の対応については、平泉町地域防災計画や平泉町水道施設災害対策マニュアルに従い迅速な対応を行います。



## 11. その他施設

### (1) 現状や課題に関する基本認識

宿泊交流体験施設「浄土の館」などの宿泊施設のほか、町営駐車場の料金所やトイレ、旧学校施設や旧幼稚園施設などの貸付物件や公園のトイレ等が整備されています。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

適切な維持・管理を行うほか、民間への移譲を積極的に行うなど、できるだけ町の負担を軽減するような、施設のあり方を検討する必要があります。

### (3) 利用状況・利用見込み

#### ① 宿泊施設（1施設1棟）

平成29（2017）年7月31日の施設オープン以来、利用者は増加しています。また、今後の利用見込みは、さらなる増加が見込まれています。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	宿泊交流体験施設「浄土の館」	179	418	136%	60.5%	宿泊者数

※利用圏域が全域の場合…令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

#### ② 公衆トイレ施設（5施設5棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率（観光者入込数）は、増加傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	鈴懸小公園	794,897	1,370,433	72.4%	60.5%	
2	鈴懸小公園トイレ	794,897	1,370,433	72.4%	60.5%	観光客の入込数
3	達谷窟公衆トイレ	794,897	1,370,433	72.4%	60.5%	観光客の入込数
4	中尊寺通り公衆用トイレ	794,897	1,370,433	72.4%	60.5%	
5	平泉町SIC駐車場トイレ	-	-	-	60.5%	2022年度建築

※利用圏域が全域の場合…令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

#### ③ 町営駐車場関係（6施設6棟）

現在施設の利用者増減率及び利用見込増減率（観光者入込数）は、増加傾向です。

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	中尊寺第1駐車場料金所	63,115	89,944	29.8%	60.5%	駐車場利用台数
2	中尊寺さわやかトイレ	63,115	89,944	29.8%	60.5%	駐車場利用台数

No.	施設名	施設利用状況(利用者数)			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
3	中尊寺第2 駐車場 料金所	2,504	8,520	70.6%	60.5%	駐車場利用台数
4	中尊寺第2 駐車場 トイレ	2,504	8,520	70.6%	60.5%	駐車場利用台数
5	毛越寺駐車場 料金所	32,511	50,610	35.8%	60.5%	駐車場利用台数
6	毛越寺駐車場トイレ	32,511	50,610	35.8%	60.5%	駐車場利用台数

※利用圏域が全域の場合…令和4年度時点の観光客入込数と令和9年度時点の推計観光客入込数との比較

④ 普通財産 (13 施設 13 棟)

No.	施設名	施設利用状況(人口)			利用見込 増減率※	備考
		R3	R4	増減率		
1	旧在宅介護センター	2,850	2,837	-0.5%	-7.3%	町内老年人口
2	観光案内所	-	-	-	-	売却検討
3	デイサービスセンター	2,850 77	2,837 96	-0.5% 24.7%	-7.3%	町内老年人口 通所サービス利用者数
4	シルバー人材センター	-	-	-	-	廃止・撤去
5	戸河内コミュニティセンター	7,330	7,232	-1.3%	-18.6%	
6	旧戸河内小学校屋体	-	-	-	-	廃止・撤去
7	旧平泉幼稚園 (11 区公民館)	-	-	-	-	廃止・撤去
8	旧古里庵 (世嬉の一酒造店舗)	-	-	-	-	売却検討
9	志業シェアハウス (旧志羅山旅館)	7,330 25	7,232 59	-1.3% 136.0%	-18.6%	町内人口 利用者数
10	旧平泉町立図書館	-	-	-	-	廃止・撤去
11	鈴沢スタートアップオフィス (旧志羅山児童館)	7,330	7,232	-1.3%	-18.6%	町内人口 2023 年度開所
12	旧平泉町公民館	-	-	-	-	廃止・撤去
13	旧束稲無線中継所	-	-	-	-	廃止・撤去

※旧在宅介護センター、デイサービスセンター：利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021（令和2年度時点の  
老年人口数と令和12年度推計老年人口の比較）、利用者数の比較

戸河内コミュニティセンター、志業シェアハウス（旧志羅山旅館）、鈴沢スタートアップオフィス（旧志羅山児童館）：  
利用圏域が全域の場合…平泉町人口ビジョン 2021（令和2年度時点の人口数と令和12年度推計人口の比較）、  
利用者数の比較

#### (4) 施設管理に関する基本的な方針

##### ① 宿泊施設（1施設1棟）

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
宿泊交流体験施設「浄土の館」	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	類似施設がないことから、唯一の公共簡易宿所として当面維持します。

##### ② 公衆トイレ施設（5施設5棟）

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
遠谷窟トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
鈴懸小公園トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
鈴懸小公園	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
平泉町 SIC 駐車場トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
中尊寺通り公衆用トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。

##### ③ 町営駐車場関係（6施設6棟）

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
中尊寺第1駐車場料金所	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
中尊寺さわやかトイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
中尊寺第2駐車場料金所	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
中尊寺第2駐車場トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
毛越寺駐車場料金所	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。
毛越寺駐車場トイレ	比較的良好な状態	利用状況が良い	継続	機能維持のための修繕を実施します。

##### ④ 普通財産（13施設13棟）

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
旧在宅介護センター	比較的良好な状態	-	-	機能維持のための修繕を実施します。
観光案内所	比較的良好な状態	-	-	将来的に大規模修繕が見込まれることから土地を含めて売却の検討を行います。
デイサービスセンター	比較的良好な状態	-	-	借主が建物の維持保全を行い、管財係が年1回の建物の安全性を確認します。
シルバー人材センター	老朽化が進行	-	-	将来的に廃止・撤去します。

施設名・建物名	施設の評価		評価結果	基本的な方針
	建物	サービス		
戸河内コミュニティセンター	比較的良い状態	-	-	借主が建物の維持保全を行い、管財係が年1回の建物の安全性を確認します。
旧戸河内小学校屋体	老朽化が進行	-	-	将来的に廃止・撤去します。
旧平泉幼稚園 (11区公民館)	老朽化が進行	-	-	将来的に廃止・撤去します。
旧古里庵 (世嬉の一酒造店舗)	比較的良い状態	-	-	借主が建物の維持保全を行い、管財係が年1回の建物の安全性を確認します。 将来的には売却を検討します。
志業シェアハウス (旧志羅山旅館)	比較的良い状態	-	-	機能維持のための修繕を実施します。
旧平泉町立図書館	老朽化が進行	利用状況が良い	-	将来的に廃止・撤去します。
鈴沢スタートアップオフィス (旧志羅山児童館)	老朽化が進行	利用状況に問題がある	集約化・複合化	機能維持のための修繕を実施します。 本施設又は近隣施設の改修・建替等の時期に合わせ、管理運営や整備手法を検討の上、財源の多様化を図ります。
旧平泉町公民館	老朽化が進行	-	-	将来的に廃止・撤去します。
旧束稲無線中継所	比較的良い状態	-	-	将来的に廃止・撤去します。

## (5) マネジメント方針

### ① 宿泊施設（1施設1棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○町民に世界文化遺産平泉の浄土思想に関する学習の場を提供し、郷土愛の醸成を図るとともに、まちの情報発信並びに観光客への宿泊交流体験の場の提供による地域の活性化及び観光振興に資することを目的としています。
現状と課題	○平成28年度と平成29年度に実施した大規模改修により耐震化も含めた長寿命化が図られました。しかし、一部（外壁やサッシ等）は従前の施設・設備がそのまま使用されており、利用者のための快適な環境整備や、さらなる長寿命化を図り良好な状態で継続的利用するため、計画的な予防保全を行う必要があります。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○日常・定期・法定点検等の実施により得たデータ及び施設の老朽化状況を元に、予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及びPPP/PFIの推進	○施設や設備の改修、更新に合わせて省エネ化を進めるとともに、指定管理者制度を導入することにより、維持管理コストの縮減とサービスの向上を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた場合は速やかに応急措置や早期の除却を行い、利用者の安全に努めます。

## ② 公衆トイレ施設（5施設5棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○公衆トイレは、だれもが自由に使用できかつ、公共の福祉に供するために設置されている施設であり、観光客も含め町民の暮らしの利便性と観光地としてのインフラ設備として有効な施設です。
現状と課題	○鈴懸小公園トイレは、平成 30（2018）年度に改修工事を行い、設備の更新が図られました。 ○達谷窟トイレは、耐用年数を迎え機器等のメンテナンス及び交換修繕等が見込まれるため、施設の老朽化に対して部分的補修で対応します。 ○施設の老朽化の状況を踏まえた改修や更新の計画を策定することが必要です。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検の徹底をはかり、施設の状況を把握しながら、計画的な保全管理に努めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて必要に応じて省エネ対応の設備等への更新を図り、維持管理コストの縮減を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## ③ 町営駐車場関係施設（6施設6棟）

施設の役割・現状と課題	
施設の役割	○駐車場料金所は、駐車場料金を徴収する施設です。料金徴収を円滑に実施し、駐車場運営が円滑に実施する上で必要な施設です。駐車場トイレは、だれもが自由に使用できかつ、公共の福祉に供するために設置されている施設であり、観光客も含め町民の暮らしの利便性と観光地としてのインフラ設備として有効な施設です。
現状と課題	○施設の老朽化の状況を踏まえた改修や更新の計画を策定することが必要です。

今後のあり方	
施設の長寿命化	○法定点検及び日常点検により得たデータ及び施設老朽化状況を元に予防保全による計画的な改修を進めます。
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	○施設の改修時期に合わせて省エネを進め、維持管理コストの縮減を図ります。
施設の最適化	○社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、施設のあり方を検討しながら、機能の確保を図ります。
利用者の安全確保	○老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討します。また、耐震化が必要な施設及び老朽化が進行している施設は、最適化の検討を優先的に進め、利用者の安全に努めます。

## ④ 普通財産（13施設13棟）

施設の役割・現状と課題	
現状と課題	○将来的に廃止・撤去が予定している施設があります。 ○利用状況が良い施設については、社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、民間への移譲を積極的に行うなど、できるだけ町の負担を軽減するような施設のあり方を検討する必要があります。

今後のあり方	
施設の長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来的に廃止・撤去が予定される施設については、必要最低限の維持・管理を行います。</li> <li>○利用状況が良い施設については、法定点検及び日常点検により必要な維持・管理を行います。</li> </ul>
施設の維持管理コストの縮減及び PPP/PFI の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来的に廃止・撤去が予定される施設は、廃止・除却・撤去等を進めます。</li> <li>○利用状況が良い施設については、社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、民間への移譲や貸付を積極的に行うなど、できるだけ町の負担を軽減します。</li> </ul>
施設の最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来的に廃止・撤去が予定している施設があります。</li> <li>○利用状況が良い施設については、社会環境の変化や多様なニーズを踏まえ、民間への移譲を積極的に行うなど、できるだけ町の負担を軽減します。</li> </ul>
利用者の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来的に廃止・撤去が予定される施設は、老朽化等により危険性が認められた施設は速やかに応急措置や早期の除却を検討し、利用者の安全に努めます。</li> </ul>

## 12. 道路

### (1) 現状や課題に関する基本認識

町内には、町道が 252,818m、農道が 1,481m、林道が 10,129m、自転車歩行者道が 1,534m 整備されており、今後の維持・管理コストが、インフラ資産の中でも最も大きくなると想定されます。そのため、地域の状況や交通量を踏まえた今後の整備のあり方について検討する必要があります。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

町の財政状況を踏まえ、重要性や緊急性等を勘案した、適切な整備や維持・管理を行います。また、パトロールによる点検や修繕を適宜実施し、利用者の安全を確保します。

## 13. 橋りょう

### (1) 現状や課題に関する基本認識

町内には、橋りょうが 94 橋あり、今後は、老朽化による更新が継続して発生し、その費用負担が大きくなることが想定されます。そのため、平成 25 年度に策定した「橋梁点検及び長寿命化計画」に基づき、計画的かつ適切な維持管理に努める必要があります。

### (2) 管理に関する基本的な考え方

平泉町橋梁長寿命化計画（平成 30 年度）をもとに、計画的かつ予防保全的な取り組みを行い橋りょうの長寿命化を図るとともに修繕・架替えに係わる費用の縮減を進め、利用者の安全を確保します。

## 第6章 推進体制

### 1. 取組体制の構築及び情報管理・共有方策

- ・ 公共施設に関する情報の管理については、公会計固定資産台帳などと共有を見据えた管理を行う体制を構築します。
- ・ 公共施設の利用状況などは、各施設所管課によりの確に把握し、いつでも最新のデータを把握できる状態とします。
- ・ 職員一人ひとりが、経営的視点をもって、全体の最適化を意識した公共施設マネジメントの視点を持つため、研修会等を実施していきます。

### 2. フォローアップの体制

- ・ 本計画の推進にあたって、マネジメントシステムの基本であるPLAN（計画）、DO（実行）、CHECK（評価）、ACTION（改善）のPDCAサイクルにより、進捗状況等を評価・検証し改善・改革を行います。
- ・ 計画の実践段階においては、所管部署が個別に進めていくことが多くなるため、庁議等において情報の共有化を図るとともに、全庁的な視点から実施状況の把握や評価を行います。



図6-1 平泉町公共施設等総合管理計画におけるPDCAサイクル



---

平泉町公共施設等総合管理計画

令和6年3月

岩手県平泉町

---